

					説明すべきではないでしょうか？ そもそも、事業番号 3-20 においても、若手研究者への支援確保や制度そのものの見直しを迫っておきながら、本事業を縮小しようとするのは矛盾していませんか？ 再度、事業内容を理解していただいてから、熟考していただけないでしょうか？
787	研究者	文部科学省	競争的資金（若手研究育成）	競争的資金（若手研究育成）削減への反対	我が国のいずれの研究分野が世界トップの水準であるのは、本資金の賜物である。若手への投資の成果の具現化には時間がかかるが、現在活躍する日本代表する研究者達はこの資金により育てられた方々である。 研究特に基礎研究及び若手研究者の育成は時間がかかるため、中・長期的な観点から資金配分等計画するべきであり、今回のように、一過的に予算の資金繰りをするために研究費を削減することは、日本のいかなる研究分野でもその進展を阻害するものであり非常に危険な考え方であるといえる。 今後、日本の研究のさらなる発展のためには本資金は必須であり、削減には断固反対する。
788	研究者	文部科学省	競争的資金（ライフサイエンス分野）	競争的資金（ライフサイエンス分野）資金削減に反対である。	本研究費が対象とする研究は、学際的かつ基礎から応用までをカバーする研究分野である。世界中において、ポストゲノム解析が進む現在、これらの研究は世界をリードする成果をもたらす期待が強くあり、今後の日本の研究の基盤となっていくものである。 研究特に基礎研究は時間がかかるため、中・長期的な観点から資金配分等計画するべきであり、今回のように、一過的に予算の資金繰りをするために研究費を削減することは、日本のいかなる研究分野でもその進展を阻害するものであり非常に危険な考え方であるといえる。 今後、日本の研究のさらなる発展のためには本資金は必須であり、削減には断固反対する。
789	研究者	文部科学省	競争的資金（女性研究者支援）	競争的資金（女性研究者支援）削減の反対	日本は、世界でもトップクラスを誇る研究水準でありながら、女性研究者の占める割合は諸外国と比べて著しく低い。 その理由は、大学院修了後、就業にあたり研究と私生活（家庭生活）の両立を推進するような措置が希薄であるためである。また、出産・育児後のブランクを埋めるための評価制度の整備等、女性研究者支援においては、必要とされる措置、解決されるべき課題が数多くある。女性のワークライフバランスの均衡が叫ばれている昨今、女性研究者も例外ではない。自信も女性研究者として安定した身分保障と人生設計を望む。そのために、資金の拡充を要望する。資金の削減などもってのほかである。
790	その他	文部科学省	科学研究費補助金	国民の健康や福祉と結びつかない実験室系の研究に巨額の費用をあてる科研費を削減させる。 科学の全体像を見渡せるような研究を促進するとともに、科学技術研究の内容を一般国民にわかりやすく説明できるような施策を支援する。 生態系や野生生物、生物多様性の回復に関わる複雑系の科学研究の促進を望む。	科研費の配分が偏りすぎている。対象を限りなく細分化し専門化する領域や、限られた条件下でしか効果のない実験室系の研究に多額の補助金が与えられ、国民の福祉に還元されていない。 また、科学が専門化されすぎて、わずかの少数の専門家しか理解できないように特化してしまい、それを外部から批判することも評価することも困難になっている。科学の全体像を見渡せるような研究を促進するとともに、科学技術研究の内容を一般国民にわかりやすく説明できるような施策が必要である。 また、地球規模で生態系が破壊され、生物多様性が失われている現状がありながら、生態系や野生生物、生物多様性の回復に関わる複雑系の科学研究には微々たる資金しか投入されていない。 来年日本で開催される COP10 を契機に、他分野の予

					算を削減して、この分野への研究支援が強化されるように望む。
791	その他	文部科学省	脳科学研究戦略推進プログラム	脳研究における動物実験、特に霊長類の脳実験を廃止するべきである。 人間の脳の病気の研究は、実際の臨床の患者の治療を通じて行うことで有益な情報を得るようすべきである。	動物の脳と人間の脳は生物の種の進化史上異なった道筋をたどっており、動物を使用した研究は人間に適用できないことが多い。 脳研究に使用される霊長類・サル類全種は、絶滅のおそれのある野生動物に指定されており、種の保全に反する。 また、日本には動物実験に関するいかなる法規制も存在せず、密室の中での動物実験を監視したり、実験動物の福祉を保证するシステムが存在しない。 脳研究のための実験動物の開発に 715 百万円も投じることば、ばかげている。 動物の脳や神経を破壊して人工的な疾患状態を作り出した実験動物を研究するよりは、実際の臨床の患者の治療を通じて行う方がはるかに有益な情報が得られ、費用対効果がある。
792	その他	文部科学省	脳科学総合研究事業（一部）	脳科学研究費を大幅に削減するべきである。 科学研究はピア・レビュー（内部関係者の評価）のみではなく社会的観点からも点検、評価されるべきである。	うつ病など多くの精神・神経疾患等は、脳の機能障害によるばかりではなく、人間関係のストレスや解決し得ない困難にさらされるなど社会的な原因が大きい。このように巨額の予算は、人間社会を安心・安全なものにする施策に使用するべきである。 この 20 年近く、脳研究に巨額の公費が投じられて以来、うつ病等の精神・神経疾患の患者が急増しており、研究を続けるために病気が作り出されている感さえする。 科学研究がピア・レビュー（内部関係者の評価）のみで行われるため、一般社会から遊離したものとなっている。その費用対効果を社会的観点からも点検、評価するべきである。
793	研究者	文部科学省	特別研究員事業	事業の大幅な予算削減の見直しがなされますことを強くお願い致します。	日本の科学技術を支えるためには、基礎研究は極めて重要であると思われます。 これまで、文部科学省が推進してきた特別研究員事業は、若手研究者および研究者を目指す博士課程学生が、経済的な不安を感じることなく、研究に専念する機会を与えて頂ける、素晴らしい事業だと考えております。 日本の科学技術の発展や国際競争力の推進のためにも、少なくとも現状での支援を維持する必要があると考えます。
794	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	事業の大幅な予算削減の見直しがなされますことを強くお願い致します。	資源の乏しい日本において、科学技術の発展は、世界における影響力の維持や日本の発展にとって極めて重要であると思われます。 これまで、文部科学省が推進してきた科学研究費補助金は、日本の学術研究を世界トップレベルにするためには必要不可欠な事業だと考えております。 日本の科学技術の発展や国際競争力の推進のためにも、少なくとも現状での支援を維持する必要があると考えます。
795	研究者	文部科学省	振興調整費女性研究者支援モデル育成事業	事業の大幅な予算削減の見直しがなされますことを強くお願い致します。	周りの研究環境に目をやると、女性研究者の割合は極めて低いように実感しています。 とても優秀な人材である女性研究者でも、出産・育児の両立や、周りの理解不足などで、苦しんでいる方や、研究現場を離れなければならない方を知り、限りでもかなりの数がいらっしゃいます。 そのなかで、これまで総務省が推進してきた振興調整費女性研究者支援モデル育成事業は、女性研究者の採用促進や、環境整備において、とても成果を上げている素晴らしい事業だと考えております。

					優秀な女性研究者の参画なくしては、日本の科学技術の発展や国際競争力の推進は減衰するといっても過言ではありません。 日本の科学技術の発展や国際競争力の推進のためにも、少なくとも現状での支援を維持する必要があると考えます。
796	研究者	文部科学省	戦略的創造研究推進事業	研究費は増額にすべき	戦略的創造研究推進事業のなかでも、特に「さがけ研究」は各世代トップクラスの若手による極めて挑戦的なアイデアを、強力にバックアップする他に類を見ない制度である。挑戦的研究とはいえ、元さがけ研究者から世界的に活躍する一線級の研究者が続出している（このような詳細な追跡調査がされているのも他に類を見ない）。他国においてもさがけ制度を本とした研究費制度も既に作られており、日本国内でこれほど成功した研究費制度は他にない。この制度をさらに広く深く支援するためには、万難を排して増額が妥当である。
797	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	研究費は現状維持にすべき	戦略研究とは異なり、すべてのカテゴリーを対象にするのが本制度である。もし科学研究費補助金を減額にした場合、特定の分野は全く研究費がまわらないことになる。現在必ずしも流行していない研究が、次世代でブレイクする例など挙げればきりが無い。さまざまな分野を広く公平かつ競争的に公募する本制度は日本の科学技術の根幹をなすものであり、もし本制度を大幅に減額した場合、資源の乏しいこの国は崩壊することになるのは疑いようがない。たとえ国の予算が厳しいときでも、現状維持が妥当である。
798	研究者	文部科学省	脳科学研究戦略推進プログラム	研究費は増額すべき	多くのうつ病や統合失調症の患者は自分の力で働くことができなくなっており、税金を使った自立支援に頼らざるを得ないのが現状である。しかし、こうした疾患の治療には脳機能のメカニズムの解明を含めた原因究明と、それに基づいた確実な診断法、有効治療法の開発が必要である。本研究費はまさにこのために必要な研究費である。このようなアプローチでの精神疾患患者の社会復帰対策は、生活保護や自立支援よりもはるかに効率のいいものであり、結果的には国全体の医療費対策に極めて有効である。従って、増額が妥当と考える。
799	研究者	文部科学省	ナノテクノロジーネットワーク	大学の施設を活用できるナノネットワーク事業は、大変有意義である。研究開発を実施するうえで、大型の施設、特に超高圧電子顕微鏡等は、自前で持つことは維持管理を踏まえて不可能であり、ナノネット事業で活用できることはありがたいと思う。是非今後も事業を進めていただきたい。	科学技術立国を目指すうえで、ナノテクノロジー事業の推進は必要である。また、大型施設を保有する大学を活用することが出来、研究を推進できるため。
800	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	我が国における学術研究を著しく後退させ、その発展を大きく阻害するような制度の見直しは、全く誤った認識に基づくものであり、「学術研究の発展とそれを支える制度の充実」こそ、我が国の経済の中長期的な発展と国民生活の向上に寄与する最重要課題であると考え。	本事業は、国家の財産とも言ふべき「科学技術の振興と推進」において、その根幹を成す学術研究の主要部分に貢献する、極めて重要かつ必要不可欠な研究資金である。 また、「鳩山内閣の基本方針」及び閣議決定された「平成22年度予算編成の方針」に基づく、新たな資源配分方針においても、「最重要政策課題や重点的に推進すべき課題のための基盤的課題」として基礎研究の強化、人材育成の強化、知的財産への対応の強化、が謳われている。本事業のような基礎研究を支えるボトムアップ的研究費は、我が国における学術研究の発展に本質的な役割を果たしているものであり、その充実なくして国家の未来は語れないと言っても過言ではない。
801	研究者	文部科学省	戦略的創造研究推進事業	我が国における学術研究を著しく後退させ、その発展を大きく阻害するような制度の見直しは、全く誤った認識に基づくものであり、「学術研究の発展とそれを支える制度の充実」こそ、我が国の経済の中長期的な発展と国民生活の向上に寄与する最重要課題であると考え。	本事業は、国家の財産とも言ふべき「科学技術の振興と推進」において、その根幹を成す学術研究の主要部分に貢献する、極めて重要かつ必要不可欠な研究資金である。 また、「鳩山内閣の基本方針」及び閣議決定された「平成22年度予算編成の方針」に基づく、新たな資源配分方針においても、「最重要政策課題や重点的に推進すべき課題のための基盤的課題」として基礎研究の強化、人材育成の強化、知的財産への対応の強化、が謳われている。本事業のような目標達成型研究を支えるトップダウンの研究費は、我が国における学術研究の発展に本質的な役割を果たしているもの

					であり、それらの充実なくして国家の未来は語れないと言っても過言ではない。
802	研究者	文部科学省	科学技術振興調整費	我が国における学術研究を著しく後退させ、その発展を大きく阻害するような制度の見直しは、全く誤った認識に基づくものであり、「学術研究の発展とそれを支える制度の充実」こそ、我が国の経済の中長期的な発展と国民生活の向上に寄与する最重要課題であるとする。	本事業は、国家の財産とも言うべき「科学技術の振興と推進」において、その根幹を成す学術研究の主要部分に貢献する、極めて重要かつ必要不可欠な研究資金である。 また、「鳩山内閣の基本方針」及び閣議決定された「平成22年度予算編成の方針」に基づく、新たな資源配分方針においても、「最重要政策課題や重点的に推進すべき課題のための基盤的課題」として基礎研究の強化、人材育成の強化、知的財産への対応の強化、が謳われている。本事業のような目標達成型研究を支えるトップダウン的研究費は、我が国における学術研究の発展に本質的な役割を果たしているものであり、それらの充実なくして国家の未来は語れないと言っても過言ではない。
803	研究者	文部科学省	革新的タンパク質・細胞解析研究イニシアティブ	これまでの経緯を踏まえ、従来通り、本会議にて施策の評価をすべきで、その評価を基に予算配分等を議論すべきである。	行政刷新会議 WG にて有識者とされている先生方の多くはこれまでの経緯を全く知らず、まして PET 技術を知らない先生が議論に加わり、我が国の科学技術の予算、すなわち進め方を決定しようとすることは、進むべき道を誤る危険性が高い。したがって、本会議にて以前のタンパク 3000 プロジェクトの反省の上に立ち、十分な議論の上で、新しい形として進めることを決定したことを踏まえ、本施策をまずは本会議にて諮り、進むべき道を公開すべきである。予算配分はそれからであると思う。
804	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	基礎研究の予算大幅縮減はやめてほしい。	基礎研究は、一見すると役に立たない研究のように思われます。しかし、現代の最先端の医学や薬学における根底は基礎研究が支えていると言っても過言ではありません。海外では、そもそも大学院生には給料が支払われます。博士課程の学生は、実際現場で研究を躍進する実行者であるにも関わらず、日本では大学に授業料を納めるケースがほとんどです。このままでは、多くの優秀な研究者は日本に留まらず、海外へと逃亡してしまうでしょう。資源の乏しい我が国の未来を支える基礎研究に対して今回のような予算の大幅カットは日本の未来を潰す行為であると考えられます。子供手当を支給することにより、教育の行き届いた日本を目指すことは重要ですが、その教育のトップに立つ大学の研究予算を削減するのは、矛盾としか言いようがありません。
805	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	科研費こそ、日本の科学研究を支える最も根本的な研究費である。これを拡充しなければ、日本の学術の発展はない。巨額のプロジェクだけではなく、多くの少額の基礎研究こそ重要なものであり、国家がサポートするに値するものである。	地球温暖化、インフルエンザ対策のような現在緊急性の高い研究はもちろん重要であるが、そのようなことを急にやろうとしても、幅広い範囲の研究人材と体制が整っていないければ、何にも対応できない。少額でも、多くの範囲に研究費を支給することが、結局は長期的に見て、もっとも有効な税金の使い方である。人類がこれまで科学の基礎研究に費やしてきた費用、労力と、そこから得られた利益を比べれば、圧倒的な倍率で利益の方が大きい。これほどの大きな倍率で人類に利益をもたらしたものは、これまでほかにないと言ってよいくらいである。
806	その他	文部科学省	科学研究費補助金	削減対象から外して頂きたい	わが国の研究の原動力となる重要な資金であるため、特に若手研究者支援に対する厳しい評価コメントがあるが、これは高い技術に裏打ちされた豊かな社会を維持するため、長期的に絶対必要な投資であり、ポスドクの甘やかかしという認識は誤りである。
807	その他	文部科学省	科学技術振興調整費	削減対象から外して頂きたい	若手研究者養成システム改革について、上記と同様の理由で削減に反対。
808	その他	文部科学省	大学院教育改革推進事業（うちグローバル COE プログラム）	削減対象から外して頂きたい	博士課程後期の学生をグローバル COE の TA/RA として採用し、経済的に支援することにより、将来有望な研究者を輩出する機会が増える。このような支援がない場合、経済的に余裕のない学生は優秀な研究者の資質を有していても大学院進学をためらってしまう。
809	団体職員	文部科学省	次世代スーパーコンピュータの開発・利用	平成 21 年 11 月 13 日に行われた行政刷新会議 WG での仕分け作業により、国家プロジェクトとして理化学研究所が進めている次世代スーパーコンピュータ開発プロジェクトが、「来年度の予算計上の見送りに限りなく近い縮減」と結論された。私はこの結論が、我が国の科	スーパーコンピュータやそれに準ずる高速計算機を用いた大規模計算機シミュレーションは、宇宙や素粒子など基礎科学の研究、毎日の気象予報や長期的な地球温暖化予測、数値風洞や衝突シミュレーションを生かした自動車設計、金融危機回避、遺伝子治療の基礎となるゲノム解析や新薬の創出など、幅広い分野で

				学・技術に関する基礎研究の発展を損ない、さらに長期的には我が国の経済活動に大きな損失をもたらすことを憂慮し、強く見直しを求める。	利用されている。私の専門である物性物理学分野でも早い時期から、物理学の基本法則に基づく物質構造や性質の理解、たとえば半導体の電子的性質や磁石のようにたくさんの粒子が集まったときに初めて表われる物理現象の解明に、計算機シミュレーションは大きな役割を果たしてきた。また最近ではコンピュータの急激な性能向上やソフトウェア開発の努力により、測定困難な性質の定量的予測や自然界に存在しない新しい材料の探索など、計算機シミュレーションの応用範囲はさらに広がっている。 次世代スーパーコンピュータプロジェクトは、世界最高速を目指すハードウェア開発と、それを有効活用するためのソフトウェア開発、さらにはさまざまな分野の計算科学研究者とコンピュータ科学の研究者を巻き込んだオールジャパンのコミュニティ形成と人材育成を通じて、この流れを一気に加速しようというプロジェクトである。スパコンの世界トップ500を見てわかるように、スーパーコンピュータの開発と利用における諸外国の努力の中で明らかに後れをとっていた我が国が、ハードウェア、ソフトウェア、人材育成というすべての面で巻き返しを図ろうとする試みである。その中にあって、我々物性物理学研究者は一に基礎物理学としての研究にとどまらず、次世代の電子デバイスや太陽電池、燃料電池、熱電材料などエネルギー変換デバイスの開発など、分子科学や材料科学などと連携した応用研究への展開も視野に入れ、このプロジェクトに大きな期待を寄せてきた。 計算機科学の過去の歴史を振り返ってみると、新しいより高速な計算機が新しい計算手法を生み、計算科学を育ててきた。計算科学の広い裾野を作るためにも、高い頂きが必要である。激しいスパコン開発競争の中で世界最高性能を達成することは容易ではないが、技術的な後追いではなく、世界最高レベルの技術開発により最高レベルの性能を目指すことは、我が国の計算機技術の将来にとっても重要である。今回の仕分け作業の評価結果に従い、このプロジェクトを1年間といえども中断することは、激しい国際競争からの脱落を意味し、将来にわたって回復困難な深刻な悪影響があることが懸念される。また本プロジェクトによって進もうとしているコミュニティ形成が停滞もしくは解消することも深く憂慮するものである。
810	研究者	文部科学省	革新的タンパク質・細胞解析研究イニシアティブ	優先度を高くするべきである	本プログラムは通常の科研費とは異なり、高難度なタンパクに対する技術開発支援を含めた高度な共同研究プロジェクトである。その成果として期待されるものは基礎研究としては世界トップレベルの研究成果であると考えられ、応用研究としては医薬、農学に大きく寄与することが期待されているため。
811	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	もっとも優先度を高くするべきである	日本が科学技術立国として今後イニシアチブをとっていくにあたり、基礎研究レベルのボトムアップは常に求められている。そのもっとも下支えをしている科研費は最も優先度を高く設定するべきであり、決して減額するべきものではない。
812	研究者	文部科学省	特別研究員事業	優先度を高く設定するべきである	将来の日本の研究を担う若者たちを支援する環境は絶対的に必要である。
813	研究者	文部科学省	発生・再生科学総合研究事業（一部）	たいへん重要である	現在、iPS細胞の確立およびiPS細胞を応用した再生医療が注目され、その重要性が広く認識されている。これらの研究は、まさにこれまでの発生研究の集大成である。 個々の発生研究が進むことによって、発生・再生分野が展開していくことに繋がっていく。 現在、日本はiPS細胞等を用いた再生医療の研究において、イニシアチブを持っている。 アメリカ等の外国が、再生研究の分野で競争力を高めてきているなかで、日本が現在のイニシアチブを維持し、発展していくためには、この発生・再生科学総合研究事業が推進されることが非常に重要であると考えられる。 iPS細胞にとどまらず、日本人は発生・再生研究の発

					展において、たくさんの功績を残していることから、今後も発生・再生研究が広く支援されることが望ましい。
814	研究者	文部科学省	理科教育等設備整備費補助	重要である	私が所属していた高校も、SSH の指定を受けており、このおかげで高校生の時点で深く科学に接することができた。 小・中・高校において、優れた科学教育を施すことは、学生の科学への興味を高めることにつながり、その後の進路選択において、優秀な人材を科学の分野へ集めることができる。 また、思考の柔軟性は年齢が若いときほど高いことから、小・中・高校における優れた科学教育は、国全体の科学のレベルを上昇させることにつながる。
815	研究者	文部科学省	ポストドクター等の参画による研究支援体制の強化	重要である	ポストドクターは既に独自の研究を進めていく能力があるにも関わらず、時間的、資金的制約のために、研究を飛躍的に進めていくことが難しい場合が多い。 本政策は、このような現在の状況を改善するものであることから、重要であると考えます。
816	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	他のトップダウンの研究費の整理統合はともかく、ボトムアップの研究費である「科学研究費補助金」の削減だけは絶対にしてはならない。日本の科学が壊滅的な打撃を受ける事態は絶対に回避しなければならない。	評価者は、それぞれの競争的資金の特徴を理解せずに、「とにかくまず整理すべき」などと暴論を展開しています。挙げられた競争的資金の中でも、科学研究費補助金は、研究者の多様な発想に基づき、基礎研究をサポートするほとんど唯一の研究費であります。これを削減して、応用研究を含む科学の発展は成立しません。この制度は厳正な審査が完備された成熟した客観性を持った制度であり、また、新たな学術的なシーズを拾い上げることができる、優れた効率の良い制度であります。文部科学省でよく把握なさっているように、科学研究費補助金の中では「決まった教授ルートにしか資金が流れる」ことはありませんので、「さらに充実すべき」との評価をもっと頂いてしかるべき制度です。諸外国の研究費審査制度と比べて、さらに充実すべき点を複数あげることができます。
817	研究者	文部科学省	特別研究員事業	日本の科学と将来が壊滅的な打撃を受ける事態を招かないように、「日本学術振興会の特別研究員事業」を絶対に縮小させてはならない。	大学院生とポスドクこそが、日本の（世界中どの国でも）科学の担い手であるとの認識が評価者の側に決定的に欠如しています。学生が科学に関わる職業を選ぶべく大学院に志望してくれなければ、日本の科学は立ち行かない厳然たる事実が軽んじられています。さらにその背景には、高額授業料を国庫に納め子弟を大学院に通わせている父兄の支持と経済的負担を無視しています。若手研究育成のあらゆるシステムは、日本の科学を支える第一線の戦力養成のためのシステムであって、経済的困窮者に対する「生活保護」でも「セーフネット事業」でもありません。大学院生とポスドクは、研究室主宰者（principal investigator, PI）との議論を通じて主体的に研究計画を立案し、自ら身体をはって、国際競争の最前線で闘っています。若手研究育成システムの中でも、特に日本学術振興会の特別研究員制度の縮小は、大学院生とポスドクが科学に貢献するチャンスを奪い、日本の将来を危うくする最悪の決定です。
818	研究者	文部科学省	ナショナルバイオリソースプロジェクト	日本の科学に対する信用を、ひいては日本国そのものに対する信用が失墜することのないよう、「ナショナルバイオリソースプロジェクト」の予算を縮減してはならない。	「理研バイオリソース事業」が先日の「事業仕分け」の俎上に上りました。この事業が3割カットとなりますと、自動的に他の大学・研究機関で行われている「ナショナルバイオリソースプロジェクト」の予算も縮減されます。このプロジェクトでは広範な生物種のリソースを整備しており、長らく先進国の中で「基礎研究ただ乗り」との批判を浴びてきた我が国の姿勢を一新するものであります。このプロジェクトの成果として稼働している種々のストックセンターは、世界中のサイエンスの振興に多大な貢献をしており、生物学研究における我が国の面目躍如たるものがあります。本プロジェクトの予算縮減は、ストックセンターの活動を縮小・閉鎖するような事態を引き起こし、日本は世界中の科学コミュニティから信用を失います。精査もせず削減と決めつけた評価結果はぜひとも再考して頂きますよう、お願い申し上げます。
819	その他	文部科学省	科学研究費補助金	要求について、賛成します。	新しいものを生み出す基盤となっている研究費であり、基盤研究のもとになっているので、拡充をめざしてほしい。
820	その他	文部科学省	科学技術振興調査	若手研究者養成システム改革および女性研	研究者は、若いときにどれくらい研鑽できるかが勝

		学省	整費	究者支援システム改革について、強く推進してほしい。	負。また女性は常勤職につくまで出産に踏み切ることが難しく、また常勤職ではない場合、出産を期に研究から離れざるを得ない状況がある。 残念ながら、大学および独法研究所では、研究者として機能していない研究者が多数おり、まずはその選別をすべきであると思われる。 入り口の若手育成および女性支援システムは保持しなければ、人材を順次供給することが難しくなる。
821	その他	農林水産省	農林水産生物ゲノム情報統合データベースの構築	増額要求すべき	最近 IIRRI(国際イネ研究所)が大規模なイネのリソースのゲノム解析をすることを発表した。日本がゲノムシーケンス競争に参戦することをあきらめた以上、データ解析と生物学で世界と競争することになる。その時の基盤として機能すると思われるデータベースは、現在バラバラの状態であり、せっかく今まで積み重ねてきた知見をうまく利用できない状態に陥っている。統合データベースの構築は、今後の日本のゲノム研究の大黒柱になることが期待されるため、立ち上げを急ぐべきだと思われる。
822	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	数百万程度の予算の補助基金は絶対減らしてはならない。むしろ増やすべきである。	大型予算（数億）をもらっている研究室は多少減額しても良いと思いますが、私たちは少ない予算でもやりくりしてクオリティの高い研究を行っています。 基盤 B など（数百万）があるだけで、工夫をすれば研究ができます。こういった予算から減額などをしてしまうと、研究室自体の存続が非常に困難になり、日本の研究を支える根本がなくなってしまいます。大型予算（数億規模）を減らし、その分このような小型予算はむしろ増やすべきであると思います。
823	研究者	文部科学省	脳科学研究戦略推進プログラム	脳科学研究戦略推進プログラムの予算を削減するべきでない。	精神疾患は若年層にも見られる重篤な疾患である。また本人のみならず患者の周りにも多くの負担をかける。本プログラムに於ける精神疾患治療の基盤を築くことは、早急に科せられた研究者の使命であり補助金を優先的に必要としている。
824	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	科学研究費は削減すべきでない。	現在までに確立された競争的獲得資金であり、また若手の独創的な研究を支援する日本の研究の根幹となる研究費である。削減となれば最悪な混乱が想定され、科学研究、ひいては教育現場の破綻へとつながるおそれがある。また削減により理科離れの進む日本で優秀な若者が加速的に科学分野を敬遠することが予想される。
825	研究者	文部科学省	戦略的創造研究推進事業	戦略的創造研究推進事業は削減すべきでない。	本事業では現在まで多くの成果が収められ、世の中に還元されてきた。現在の科学研究は大規模となり、高額の研究費が必要とされる。削減による研究の停滞は、目に見えており革新的な研究が生まれにくいであろう。
826	研究者	文部科学省	次世代スーパーコンピュータの開発・利用	当プロジェクトは行政刷新会議の仕分けにおいて、来年度予算の見送りもしくは大幅削減をすべき、と結論づけられていますが、全く賛成できない。目標が達成出来るよう、十分な予算を充てるべき。	当プロジェクトはすでに何年もかけて、その意義と方法論については議論が尽くされています。2社のプロジェクト離脱は、プロジェクト全体から見れば、重要なことではなく、富士通だけでも、十分にその目的を達することができるはずです。今、ここで中止したり、計画を1年以上にわたって遅らすことは、コンピュータの性能が日進月歩で進歩していることを考えれば、大きな損失となることは確実です。また、スパコンランキングTOP500 等からもわかるように、日本のコンピュータ環境は先進国の中でどんどん遅れを取っており、このままでは日本に優秀な人材が世界から来ないばかりか、逆に長期的には海外に流出して行くことになるでしょう。
827	公務員	文部科学省	次世代スーパーコンピュータの開発・利用	政府が、次世代スパコンプロジェクトの意義を再認識し、地球規模の問題解決、我が国の国際競争力の強化のための布石として、本プロジェクトの一層の推進を図ることを強く要望するものである。	次世代スパコンプロジェクトに対する見解 半世紀にも亘る自民党政権から今秋には民主党政権に替わり、政治運営において多くの新しい試みがなされている。自民党長期政権の間に、いつの間にか深く意識されなくなっていた慣例に基づく多くの仕組みや、長期政権化で進められてきた政策に対して、新しい観点からの検討が加えられることは、一般的に言って好ましいことであり、国民の多くの支持を得るところとなっている。昨今の深刻な経済不況、地球規模の環境問題など、緊急でかつ抜本的な対策が求められる状

				況において、思い切った変革が試みられることもまた、必要な過程であると理解している。さらに、こうしたことの検討が「公開」で行われていることも、高く評価できることである。 上記の一般的な理解に基づいてもなお、現在進行している行政刷新会議の「事業仕分け」作業の妥当性に関しては、強い懸念を覚えずにはおられない部分がある。本声明は、計算物質科学連絡会議有志が、1月13日に行われた事業仕分け作業の対象となった、次世代スパコンプロジェクトへの対応について我々の見解を表明するものである。 あらゆる組織の運営において、現在の不都合を改善するための緊急の措置を要する対応、組織の活力を将来的に増強するための長期的視野に基づく対応、の2つの側面が存在する。国における科学技術政策は、後者の長期的視野を必要とするものである。国際競争力の強化のためにも、地球規模の環境問題の解決のためにも、科学技術の長期的政策は必須であり、それなしには将来の展望はあり得ない。特に、大型の科学技術関連プロジェクトは、国家の将来を左右するものであり、その取り組みにおいては、研究者コミュニティおよび産業界による専門的な検討の重要性は言を俟たない。次世代スパコンプロジェクトは、こうしたものの一つとして位置づけられる。 半導体技術の急速な進歩にも支えられ、次世代スパコンプロジェクトで目指している計算機は、一秒間に1016回もの浮動小数点演算を行うという驚異的な性能を持つ。計算機の性能は、過去50年足らずのうちに、1010倍もの性能向上が達成されることになり、多くの科学技術開発の中でも際立った性能向上が実現されてきた。また、計算機そのものの進歩とともに、計算技術が絶え間なく向上されており、計算機シミュレーションの威力は目覚ましい発展を遂げてきた。それにより、スパコンは現在および将来の科学技術の要となりつつある。ペタフロップスを超える性能の計算機の開発は、米国において強力に推進されており、すでにペタフロップスの性能を達成した計算機も複数の国立研究所に導入されている。中国もまた高性能のスパコン設置計画を進めており、すでに我が国の先端スパコンを超えるスパコンが導入されており、ペタフロップスを超える計算機の独自開発にも積極的に取り組もうとしている。 次世代スパコンプロジェクトで計画されている研究には、宇宙・素粒子科学による物質の根源について追求や我々の周囲にある生物を含む実に多様な物質の性質の解明を目指す基礎研究から、地球温暖化の予測、地震・津波・集中豪雨の予測と災害対応指針の策定、遺伝子治療の基礎や新薬の設計、次世代電子デバイスや新材料の設計、自動車・列車・航空機のデザイン、などの生活に直結する研究に至るまで、幅広い最先端科学技術の課題への対応が含まれている。 我々が関与する物質科学について付言する。半導体デバイスにおける近い将来のCMOSの限界については、もはや実験だけでは対応不可能であり、スパコンによる大規模なシミュレーションが本質的に重要な役割を果たすと考えられている。環境・エネルギー問題においても、太陽電池・燃料電池・2次電池・熱電変換、などにおける大幅な効率向上は、物質・材料科学の研究成果に基づく変革が必須であり、そのためには大規模なシミュレーションの役割の重要性が強く認識されている。また、触媒や酵素は、物質変換における省資源・省エネルギーの基盤であり、そこにおいてもシミュレーションの進展は目覚ましく、今後は更に一層の重要な役割が期待されている。 次世代スパコンプロジェクトは平成18年度にスタートしており、次世代スパコンが従来のスパコンの概念をはるかに超えた超並列計算を必須とすることから、計算科学の広いコミュニティにおいて、超並列計算への対応がなされてきた。また、計算科学の将来における一層の重要性に鑑み、本プロジェクトを契機として、研究コミュニティの編成と強化、教育・人材育成、大学や公的な研究機関と企業との連携、等の検討も着々と進められており、1年半足らずの後に予定されている次世代スパコンの仮運用に向けて、更なる
--	--	--	--	---

					進展への機運が盛り上がってきている。計算機の開発と並んで、こうしたソフト的な活動は、我が国の国際競争力を強化する上で重要な効果をもたらすはずである。 こうした、広範な側面とりわけ「科学技術」研究にとって基本的に重要な長期的な戦略に基づくプロジェクトの内容を少人数で把握することは大変困難であり、大変限られた時間での意見交換によって推進に関する基本方針に関する重大な結論が出されることは不適切である。 今回の「仕分け作業」により、次世代スパコンプロジェクトを凍結することが、どれほどの悪影響をもたらすかは計り知れない。計算機そのものの開発計画における致命的な遅れとともに、研究コミュニティで積み重ねてきた、そしてまさに一層の熱意で取り組もうとしているソフト的な活動に対しても、壊滅的なダメージを与えることを恐れる。
828	研究者	文部科学省	大型放射光施設 (SPring-8)	予算削減には反対。	ヨーロッパの ESRF は 18 か国で共同運営しているのに対し、SPring-8 は日本だけで運営しているので、負担が伴うのは非常に理解できるが、アジアでの科学技術開発のリーダーシップを取るためにはぜひとも必要な施設である。ビームタイムが減る、もしくは使用料金が数十倍に跳ね上がる、ということであれば、すでに成果が約束されているような大型プロジェクトでしか使用できなくなり、萌芽的な研究に SP-8 を適用することが難しくなり、いずれは研究分野全体の衰退を招きかねない。また、評価コメントの中の「利用効率の低いラインのスクラップアンドビルド」は、ESRF ですでに導入されており、むしろ生産性の低下につながっていることを申し添えておきたい。
829	研究者	文部科学省	特別研究員事業	見直しが必要である	競争的資金とされているが、修士 1 年もしくは 2 年という、業績の評価がほぼ不可能な初期での評価を行っていることから、実際には旧帝大有名研究室への資金のばら撒きに等しい。成果の評価も非常にいい加減で、博士課程の途中でドロップアウトした場合の罰則もなく、次年度も同じ研究室の下級生に何事もなかったように支給されている例を知っている。博士課程進学者への一律支給もしくは授業料免除に切り替えるべき。
830	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	一律の予算削減には反対。だが見直しは必要。	競争的資金の一律削減には反対。しかし、明らかに資金を得る資格のない論文を捏造し、それを用いて科研費を申請している場合がある。私自身、ある企業に付属する財団法人に勤務していたとき、捏造と隠ぺい工作を目の当たりにし、JSPS および JST の「不正告発窓口」に通報したが、事実上とりあってもえず、捏造論文の著者は次の年に総額 2000 万円の基盤研究 B を獲得した。日本には、このような捏造者をとりしまる機関が機能していないことが問題である。アメリカの Office of Research Integrity(http://ori.hhs.gov/)に相当する組織が日本にも必要と考える。また、情報の秘匿権が研究においても保持されている企業との共同研究、いわゆる産学協同は、捏造の温床となることを付け加えておく。
831	研究者	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設 (SPring-8) の運営体制の構築	私は予算削減に反対です。	予算削減に反対する理由は SPring8 は、偏った分野ではなく様々な科学分野(例えば物理・化学・生物 等)で利用されているからです。 この施設の運営費を削減することは、日本の科学技術全般に対し暗い影を落とすことになると思います。 これはとても重要なことで、このような広い分野に影響を持つプロジェクトは他には無く、特筆すべきこのプロジェクトの特徴だと思います。 ですので安直に予算の削減をすべきではないと考えます。 勇気ある政治決断を切に願っています。
832	研究者	文部科学省	革新的タンパク質・細胞解析研	安易な予算削減には反対です。	タンパク質の機能解析を、より有用なタンパク質に焦点を当て、集中的に研究を推進させる良いプロジェ

			究イニシアティブ		クトだと思います。このようなプロジェクトに関して予算を削減するのであれば、逆にどのようなプロジェクトであれば、予算を削減しないのか。その基準に疑問をもつと思います。
833	研究者	文部科学省	X線自由電子レーザーの開発・共用	予算削減の対象にすべきではないと思います。	まず、参考資料を見ると 21年度当初予算額に対して、22年度要求額が他のプロジェクトに対して、かなり削減されていることが一つ挙げられます。 他のプロジェクトには無い特徴だと思います。 さらに ライフサイエンス分野やナノテクノロジー・材料分野など、様々な科学技術分野に対して、可能性を感じさせるプロジェクトだと思うからです。 このような基礎研究の発展は民間まかせではなかなか厳しいと思いますので、国家プロジェクトとして進める必要があると思います。
834	会社員	厚生労働省	難治性疾患克服研究	治療法がまだ見つからないような「難病」の治療研究を促進してほしい。	難病患者が将来に対して少しでも希望を持って日々の生活がおくれるように、そして、一日も早く治療法が見出されて患者の病気が治り、健康な生活が送れるようにしてほしい。
835	研究者	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPring-8）の運営体制の構築	大型放射光施設の予算削減に反対します。	私は韓国人です。私が意見を表明する権利はないかも知れませんが、一言書きます。 私は、大型放射光施設の予算削減について強く反対します。 それは、大型放射光施設の予算削減ではなく、多くの基礎科学分野全般について、いきなりの30~50%の削減について反対します。 大型放射光施設の予算削減は世界先端を走っている基礎科学分野をつぶすことと同じです。 日本という国が今のように豊かになった理由は、成果がなくても研究者が研究できるような環境を作ってくれたからです。 特に、人を信じてゆっくり待ってくれた政策は、国民から見たら無駄使いがあったかも知れませんが、 研究者どの人でも自分のお父さんがまたは妹が払っている税金を無駄に使いたいと思っている人はいないと思います。 基礎科学分野の投資は、今すぐでは見えませんが、いつかは産業の発達にもつながり、 日本国民の生活も豊かになることに拡大になります。 その証拠は国民がいま生活しているどこでも探せることができます。 そして、それは、研究者と会社の努力とそれを後押しする日本政府があったからです。 このようなことは、どの国に比べても強点であり、韓国が負けている理由の一つだと思います。 もし、30~50%の削減が決定になり、その政策がこれから続くのであれば、 若い研究者は海外へ、また、お金がない大学は研究を止めることしかできません。

					本題である大型放射光施設の予算削減した場合、予想される結果は以下のようになります。 ・予算削減により、ビームタイムを減らすことしかできない。 ・少なくなったユーザータイムは成果を出している研究者にしか提供できない。 - または、ビームタイム使用料を払う場合、お金持っている大学・研究室しかビームタイムは使えない。 ・成果が貧乏のところは画期的なアイデアがあっても実験できない。 ・使いにくい日本より、アメリカかフランスにある施設を利用する。 ・成果はアメリカとフランスを利用して、出たと有名な雑誌に載る。 ・ユーザーはどんどん海外へ行く。 ・大型放射光施設は利用者が少なくなったので、先端的な測定技術開発を中止する。 ・ユーザーはどんどん海外へ行く。 ・せっかく日本で育った研究者も海外へ行く。 ・せっかく建てた大型放射光施設は利用者が少なくなる。 ・大型放射光施設が止まる。 それでも、削減しますか？
836	その他	農林水産省	新農業展開ゲノムプロジェクト	増額要求すべき	最近 IRRI(国際イネ研究所)が大規模なイネのリソースのゲノム解析をすることを発表した。新農業展開プロジェクトでは、遺伝子単離など勢力的に行っている。ゲノム情報が今後明らかになるにつれて、生物学的な意味を問われる事になる。ゲノム解読はされても、生物学的な機能がわからなければ使いものにならない。日本の植物科学は世界をリードしており、農作物への利用が可能である。日本は、マーカー技術を利用して、GM にたよらない技術革新を目指すべきだと思う。
837	その他	農林水産省	指定試験事業に要する経費	必要経費を精査すべき	民間にまかせられるかどうかの議論は必要だと思う。
838	その他			(記入なし)	(記入なし)
839	その他	文部科学省	脳科学研究戦略推進プログラム	削減しないでください。	精神病は深刻な問題です。早期の治療法を見つけて欲しい。
840	その他	文部科学省	科学研究費補助金	削減しないでください。	研究者を支える根幹の科学研究費を削減することは恐ろしいです。
841	その他	文部科学省	戦略的創造研究推進事業	削減しないでください。	歴史的な発見をするには必要な研究費かと思えます。
842	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	現状維持、若しくは、増加	我が国の科学研究を支える根幹となる競争的資金である。研究者の自由な発想によるボトムアップの研究提案であり、トップダウンのプロジェクト研究ではできない幅広い研究が可能である。こうした広い研究の裾野が将来の研究の芽を育成するとともに、大学における学生の教育にも大きく貢献している。研究の場となる大学自身は運営交付金の削減から研究を支援することが困難となりつつあり、直接経費とともに間接経費の支給が不可欠である。
843	研究者	文部科学省	特別研究員事業	是非、継続した支援を推進してほしい	昨今の経済不況から、大学院、特に、博士後期課程への進学が困難になりつつある。また、博士を取得したとしてもその後の生活の不安定さが進学をさらに阻害している。我が国の活力は高等教育、科学技術の振興にあり、その推進のための人材を育成すること

					が必要であるが、現状は目の前の応用開発にのみ、向けられている。長期的展望を見据え、よい人材が少なくとも、大学院教育において、親の支援なく、勉学に集中できる機会を与えることが不可欠である。
844	研究者	文部科学省	革新的タンパク質・細胞解析研究イニシアティブ	予算措置優先度を高くすべきと考える。	生物のタンパク質の構造はその機能、働きと密接に関連し、構造の理解は生物そのものの理解につながる。生物の働きがわかれば、ここから医薬、環境、食品などの分野での産業応用へつながり、1億円の投資が将来の1兆円を生むことになる。構造の解析にはタンパク質を結晶化し、解析し、または低分子化合物との反応を観察する必要がある、この難易度高い研究には、高額な試薬、大型放射光を含む解析機器、マンパワー等が不可欠であり、データを集積し精度高い解析を目指すのであれば、オールジャパンの取り組みが必要と思われる。 現在世界最高水準を誇る我が国の構造生物学の維持発展のため、本研究は優先度高く予算措置されるべきものと考ええる。
845	研究者	文部科学省	戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発事業を含む）	予算措置優先度を高くすべきと考える。	予算の限られる中、もっとも効率よい研究推進には戦略的なプロジェクト体制が必要。これまで、iPS細胞の発見をはじめとする最先端技術開発においていくつもの卓越した成果・実績を上げてきたこの事業にこれまで同様またはそれ以上の配分を行うことには、基礎研究の長いスパンでの効果のほかに、すぐに産業応用への道も開かれる可能性があり、即効性ある経済効果をねらうことも可能である点から、予算措置優先度を高くすべきと考える。
846	その他	文部科学省	脳科学研究戦略推進プログラム	削減しないでください。	他者との交流が不安になる今日この頃。社会的な関係を科学する研究が必要です。
847	その他	文部科学省	科学研究費補助金	削減しないでください。	科学によって進んだ未来。科学によって元に戻るのに研究は必要です。
848	その他	文部科学省	戦略的創造研究推進事業	削減しないでください。	面白い研究は自分を惹きつけてやみません。もっと革新的な研究を。
849	研究者	文部科学省	ポストドクター等の参画による研究支援体制の強化	重要なので積極的に支援していくべきだと思う。	高度な教育を受けたポストドクターは専門性は高いが、適切な支援により社会にとって価値のある労働力となりうるので、研究の受け入れ先が不足している現状は、社会にとって損失であると思う。
850	研究者	文部科学省	発生・再生科学総合研究事業（一部）	重要なので積極的に支援していくべきだと思う。	発生・再生科学は生物科学の根幹をなす分野であり、医療分野への応用を考えたときにこれから解明されることが不可欠な課題が多く残されているため。
851	研究者	文部科学省	バイオリソース事業（一部）	重要なので積極的に支援していくべきだと思う。	生物研究においてバイオリソースは必要不可欠なものであるが、個別の研究グループのみで維持・管理することは非常に難しいため。
852	その他	文部科学省	脳科学研究戦略推進プログラム	削減しないでください。	現在の複雑な人間関係は科学によって解きほぐされるのではないのでしょうか。
853	その他	文部科学省	科学研究費補助金	削減しないでください。	人間の知的好奇心は止まりません。もっと私は色々知りたいです。
854	その他	文部科学省	戦略的創造研究推進事業	削減しないでください。	マンパワーや多額な資金が必要な研究もあることは否定できません。必要なのではないのでしょうか。
855	研究者	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPring-8）の運営体制の構築	大型放射光施設 SPring-8 のユーザーとして 「大型放射光施設 SPring-8 : 3 分の 1 から 2 分の 1 程度予算要求の縮減」に対し異議申し立てさせていただきます。	大型放射光施設 SPring-8 は世界最高輝度の X 線を発生することのできる施設です。 ここでは、SPring-8 の光源を使ってしかできない研究が行われ、基礎研究から産業利用に至るまでの世界トップレベルの研究成果が多数輩出されています。 誰でもユーザーになることができます。実験課題を申請し、「科学的重要性」「SPring-8 光源の必要性」の高い課題が採択されます。採択率は 50%と厳しく、また割り当てビームタイム（使用時間）も半年間にたった 48 時間程度です。 これは計画通りに実験が進んだ場合のギリギリの時間です。その間は、昼夜を問わず実験します。予期せぬトラブルに会って実験が遂行できなくとも、割り当て

					時間が終わればそれまで、という全く余裕のない過酷なシステムになっています。 これまで SPring-8 は、国家のサポートにより、“優れた”研究課題を提案する研究者には誰でも平等に門戸を開いてきておりました。 ところが事業仕分けの結果の通り、予算が削られてしまうと、運転時間が減る、あるいは、ビームタイム使用料（現在約 1 万円/8 時間）が大幅に値上げされることが予測されます。 その結果、ユーザーは大型研究費を持つ非常に厳選された研究者に限られてしまうことになるでしょう。 現在、特定の研究者に研究費が集中し、大きな格差が生じようとしています。 このような一極集中型の研究費配分が、一方では優れた研究の発芽を見逃すことにもなりかねません。 この度の「行政刷新会議事業仕分け」を公に行ったことについては高く評価いたします。 ただ、本事業 「大型放射光施設 SPring-8 : 3 分の 1 から 2 分の 1 程度予算要求の縮減」の対応に当たられた文部科学省の方は、実際に大型放射光施設 SPring-8 を利用されてはおらず、その意義に関して充分理解されていたかどうか分かりません。従いまして、是非とも直接本事業の意義を知る国民の意見を受け止めていただきたいと思っています。 何卒、日本の誇る研究施設への予算の縮減の見直しをご検討くださいますようお願い申し上げます。
856	研究者	文部科学省	特別研究員事業	予算縮小をするべきではない	特別研究員事業は、事業仕分け第3WG でコメントされたような（事業番号 3-21 競争的資金（若手研究育成））「ポストドクの生活保護」でもなければ、「博士取得者のセーフティーネット」とは断じて異なる。まず、大学院博士課程学生向けの「DC1」「DC2」制度は、真に優秀な研究者になる素養をもった学生の就学を、経済的な理由で阻んだり断念させないためには必須の事業である。特に槍玉に挙げられている「PD」制度にしても、将来有望な研究者が、そのキャリアの初期に、受入れ研究者の時々々の経済状況に抛らずに必要な知識技術を習得するためには極めて重要な資金制度である。研究領域の融合が進み学際的な研究が増加する中、ひとりの研究者が多様な知識技術を身に付けるは不可欠であり、それを可能にする本制度の縮小は、わが国の将来の科学技術を担う人材の飛躍を押しやめることに相違ない。
857	研究者	文部科学省	特別研究員事業	日本学術振興会特別研究員（PD）の応募枠を減らすべきではない。しかし、DCは減らし、民間就職のための支援策に振り替えるべき。	博士号取得者の就職状況は依然として厳しい。民間就職への道が十分に開拓されるまでは、優秀な若手研究者が自由に研究に打ち込むことのできる唯一の枠組みが、この学振PD制度である。事業仕分けの理不尽な判定を許すべきではない。一方でDC制度は安易な進学者を増加させ、余剰博士問題を助長する。
858	研究者	文部科学省	大学院教育改革推進事業（うちグローバルCOEプログラム）	急激な予算の縮減はポストドクターの大量放出につながる。費用対効果を見極めるための時間をおくべき。	博士号取得者の就職状況は依然として厳しい。優秀な若手研究者が研究業界で活躍することのできる、学振PDに代わる枠組みがgCOEと言い換えることができる。事業仕分けの理不尽を許すべきではない。
859	研究者	文部科学省	バイオインフォマティクス推進センター	事業をより一層推進するべき。	生命科学は、情報の集積と活用によって大きく社会に利益を還元できる状況を作りつつある。その歩みを止めるべきではない。事業仕分けの理不尽を許すべきではない。
860	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	科学研究費補助金は、日本の科学を推進する原動力とも言える研究補助金のシステムである。したがって、これらの研究費補助金を、	特に我々が属する、医学系の基礎研究の発展は、疾病の原因解明、新しい診断法および治療法の開発に欠くべからざる要件である。そして、この分野には、医

				拡充することに賛成する。その削減は、将来の日本の基礎および応用科学の発展を強く阻害し、科学立国「日本」の存在を危うくするものである。	学部卒業者で疾病のことを理解できる研究者が少なからず存在することが重要であるが、昨今の専門医制度の普及により、医学部卒業生の臨床志向が強くなり、このままでは基礎医学の衰退が危ぶまれる。このような時期に、上記の科学の基盤を支えている多くの研究者を支援する研究費を削減すれば、日本の医学の将来を担う若手医学研究者の育成が、いよいよ難しくなり、明日の医学の発展による国民の健康な生活の保障すら担保できなくなることが危惧される。以上の理由により、科学研究費補助金の継続ならびに増額を切に要望する。
861	研究者	文部科学省	戦略的創造研究事業	他の研究者をリードする優れた研究成果を持つ、若手研究者の研究支援における、戦略的創造研究事業の果たす役割は非常に大きい。この支援のお蔭で、国際的にも評価の高い先導的な研究成果が上がっている。このような優れた若手の Top Scientists を育成するために、本事業の増額に賛成する。	一定の業績を上げた若手研究者に、まとまった期間の研究費を確保して、その研究を支援することにより、日本発の国際的に評価の高い研究成果を得るチャンスを賦与することは重要である。従来の本事業の成果は十分に上がっており、その成果は基礎研究のみならず、iPS 細胞の臨床応用の可能性に代表されるように、人類の健康な生活に役立つ、応用研究への発展が期待できる。このような成果を利用して、国益ならびに国民の安全かつ快適な生活を支援することが可能となる。
862	研究者	厚生労働省	感染症対策総合研究事業	肝炎ウイルス、HIV、インフルエンザなどの感染症のコントロールは、社会的に非常に重要な意義をもち、この研究および施策を間違えると、重大な社会不安を引き起こす。したがって、本事業の継続と増額が好ましい。	肝炎ウイルスによる慢性肝炎、肝硬変、肝臓がんという一連の悪性な経路を絶つための、感染予防接種の開発、肝硬変・肝臓がんへの進行の機序の解明と、その成果による予防・治療法の開発は急務である。また HIV の蔓延を防ぐためのワクチンの開発および、エイズの新規治療薬の開発は全世界的な重要課題である。さらに、感染者の数において圧倒的に多数であり、社会混乱や経済活動の低下にまで影響を及ぼすインフルエンザ対策についても、全世界と協力して実施すべき重要な課題である。
863	会社員	文部科学省	オーダーメイド医療の実現プログラム	当該プログラムをより重点的に推進することを望みます。 または、当該プログラムと包括して「厚生労働省（３）」ならびに「経済産業省（０１－０５、０１－０６）」「文部科学省（１６）（１８）（２２）」「警察省（１）」「環境省（１）」等を推進することで、近い将来的に国の医療費の大幅削減を実現すると思います。 現状、当該プログラムは対象約 40 疾患に絞って研究されていますが、今後、恒久的な試料のバンキングによって様々な疾患について研究の推進と医療への還元をしていただきたいです。実現した際には、米オバマ法案「Personalized medicine Act」を日本が先行して実現することにもなり、ついてくる知的財産と国益、国民の利益には大きなインパクトがある筈です。	疾病の根本的治療、薬の副作用の予測を実現化を目的とするこのプログラムの推進で、特に日本人の慢性疾患に関わる医療費、「薬の副作用」の治療に当てられる医療費が削減可能になる。定期的な通院、処方、検査などがまとめて削減できる可能性があることから、実現した際には医療制度の改革も起こせるインパクトのあるプログラムである。このプログラムに約 20 万人の患者が支持していることも事実である。但し、バイオバンク事業から国民への還元にあたっては、「文部科学、厚生労働、経済産業」の各省庁のリンクするところは必須であり、むしろその三省の巨大な合同プログラムとして一貫した体制が取れたら社会還元の加速が期待される。 また、過去に厚生労働省にて同様の生体試料のバンキングがされたものの継続予算がつかず廃棄されたとの噂を聞いたことがあるが、同様の事態に終止することになれば、当然それは人道に反するものと考えられる。
864	会社員	農林水産省	民間主導技術開発促進事業	グリーンイノベーションの推進をしていく上での企業の介入は、「自然／生態」を「商品」にして「商売」転化していくことにほかならない。 環境保全やグリーンイノベーションを謳いながら、結果「商品化」された自然が創られていく。そんな事態を阻止するために、国費の介入は必要と考える。「国土交通省（９）」	企業の介入は「利益」がなければ成立しない。 自国の環境を保持・改善していくのであれば、間接的に国民が参加する「国費」での中立的な運営が必要である。
865	研究者	文部科学省	女性研究者支援システム改革	女性研究者支援システム改革をひきつづき推進することを強く希望いたします。	日本社会における女性の参画率は他の先進諸国に比較して極めて低率にとどまっています。研究という仕事は個々の能力がもっとも発揮されやすい分野であり、男女、老若、出身国など様々な個性が混ざることにより発展する分野であると思います。しかしながら、女性研究者にとって、研究成果をもっとも要求される時期に重なってしまう出産育児と研究の両立は極めて困難です。出産育児をあきらめることなく、研究者として研究を継続し能力を発揮していくために、女性研究者支援は極めて有効です。減額することなくぜひ継続していただくようお願いいたします。
866	研究者	総務省	移動通信システムにおける周波数の高度利用に向けた要素技術の研究	本施策は重要度が高く、実施すべき案件と思います。	携帯電話技術はわが国が世界をリードしている数少ない技術の 1 つです。にもかかわらず企業の世界におけるシェアは非常に低い状況です。次世代の技術である LTE が世界に先駆けて来年末に商用化されようとしています。それは国内メーカーが世界で優位に

					立つチャンスです。それをさらに後押しし、この分野におけるわが国の技術的優位性を磐石にしておくことは、産業立国としての日本としては極めて重要です。本施策の有効性は非常に高く、コストパフォーマンスが良いので、そのような案件の実施を強く希望します。
867	会社員	文部科学省	次世代スーパーコンピュータの開発・利用	事業仕分けで暫定的に決まった「次世代スーパーコンピュータの開発・利用」予算の凍結または大幅削減に反対します。 平成22年要求予算通りに施策が履行されることを希望します。	次世代スーパーコンピュータは国民生活における利益につながるのに、予算削減はそれを妨害する行為となるためです。 大きな利益の一つは、「天災被害を予防するためのシミュレーションの超高精度化」です。 現在存在するスーパーコンピュータでは、その処理速度の限界から十分な災害予測が行えません。 例えば、私たちは年に何度も発生する台風の進路や突発的に発生する集中豪雨を事前に精度良く予測することができません。後手後手に対策を打たなければならぬため、電車・バスや飛行機などの交通機関が大ダメージを受け、通勤・通学・出張、緊急を要する移動などの国民生活が大きく妨げられています。時には人命も失われてしまいます。 次世代コンピュータは単なる技術で世界一を目指すためのものではありません。これからの日本国民に必要なものになると考えます。 どうか予算削減の停止について再考をお願いします。
868	会社員	文部科学省	次世代スーパーコンピュータ戦略プログラム準備研究	事業仕分けで暫定的に決まった「次世代スーパーコンピュータ戦略プログラム準備研究」への予算の凍結または大幅削減に反対します。 平成22年要求予算通りに施策が履行されることを希望します。	日本と日本国民にとって、次世代スーパーコンピュータへの投資は近い将来の利益となるのに、予算削減はそれを妨げる行為であるためです。 日本国民は、外国に技術を売らなければ生きていけません。 次世代スーパーコンピュータと、その演算能力を用いた災害予測プログラムの開発は、外国にも売れる技術になります。 例えば、アメリカでは大型ハリケーンの発生やロスの広範囲山火事で多くの人命や資源が毎年失われています。 これは、ハリケーンの進路や山火事の広がり方を十分に予測することができず、必要対策が行えないことが原因です。 スーパーコンピュータとその演算能力を利用した災害予測プログラムの開発は諸外国でも利用され、その結果日本国民の重要な収入源となります。 課題は開発を遂行する団体が昨今の経済後退により、限られてしまったことです。 今必要なコンピューティング技術を国主導で構築することにより、近い将来の日本の進展が約束されると思います。 どうか予算削減の停止について再考をお願いします。
869	研究者	文部科学省	科学技術振興調整費 女性研究者支援システム改革	女性研究者支援に関し、予算等大幅削減とのご提案に反対致します。	最近になり、ようやく女性研究者への支援活動が目立ち始め、広まりつつある状況にあるように感じます。 今、削減することは、折角良き方向へ向かい始めた現状を停滞、さらには減退させることであって、今までの現場の労力や支援が無駄になりかねません。 総括して考えれば、今削減することは、逆に、もったいない事以上に他ならないと思います。 ご提案の改善を、どうぞご検討ください。 私たち、現場の女子学生へ、どうぞご支援を宜しくお願いします。

					願ひ致します。
870	研究者	文部科学省	科学技術振興調整費 若手研究者養成システム改革	若手育成研究に関して、より充実することを望みます。	私たち、基礎研究の研究者を目指す学生にとって、学位取得後に、自らの研究を行って独立していく事は大きな夢であると共に、現状のシステムにおいても、非常に大きな壁となっています。 それだけ、現状ですでに限られた狭き門です。 むしろ門を広げて欲しい、もっと可能性を試すチャンスをも、基礎研究の若手研究者に与えて欲しいです。 それが、全ての応用研究の基盤となる、基礎研究の発展に繋がって行くことだと私は考えています。 どうぞご検討の程、宜しく願ひ致します。
871	研究者	文部科学省	戦略的創造研究推進事業	先端研究の競争的資金に関して、予算等縮減に反対致します。	研究費の削減は、科学の発展をダイレクトに抑えることにつながると思います。一年なら、数年なら、という計画でも、いかに各個人、各研究室それぞれに大きな打撃を与えてしまうかも考えてほしいことだと思います。 諸外国との競争も厳しくなっていますし、支援をお願い致します。 基礎研究は、全ての応用研究の基本であり、基盤となるものです。 基礎研究が発展することは、あらゆる限りない応用へと繋がるものです。 しかしながら、基礎研究は、国など限られた資金しか利用できません。 科学全体の発展のために、当予算の縮減に反対致します。
872	研究者	文部科学省	科学技術振興調整費（女性研究者支援システム改革）	女性研究者支援における「研究費削減」に反対いたします。	保育所により子育ての負担は軽減はしてもゼロにはならないわけですから、保育所に子供を預けている間の短い時間で成果を出さねばなりません。研究費や実験補助員を雇う費用がなければ、満足した研究はできず、そうすると、「女性研究者は、ポストを与えたのに研究成果は出せない」というレッテルが貼られます。このことは女性研究者の地位を著しく下げることにつながり、女性研究者支援とは全く逆の効果を生むと考えます。以上よろしくご考慮お願いいたします。
873	会社員	経済産業省	次世代型ヒートポンプシステム研究開発	（１）ヒートポンプの高効率化に向けた技術開発とヒートポンプを様々な領域（工場の様々なプロセス）に導入するための導入技術の開発の２本立て事業を実施すべきである。 （２）Ｈ２２年度の予算要求額が４億円になっているが、本施策の重要性を鑑みれば、予算の大幅な増額が必要である。 （３）ヒートポンプの高効率化を実現するためには、熱交換機レベルの基礎研究から、ヒートポンプのシステム化技術まで、各層に分かれた包括的な研究開発が必要である。是非、長期的で本格的な研究開発施策とすべきである。	二酸化炭素排出量削減に最も実効性ある方策は、ヒートポンプ機器の高効率化と導入拡大である。特に、工場に多く導入されている蒸気ボイラーを高効率なヒートポンプに代替できれば、その二酸化炭素の排出削減量は極めて大きな事が試算されている。本技術の重要性に鑑みれば、本施策には大きな資金を投入すべきであり、また長期にわたる本格的な研究開発施策とすべきである。 ヒートポンプの高効率化に成功すれば、世界に冠たる日本の技術という事で、日本経済の国際競争力確保に大きく貢献でき、更には温暖化防止に関わる日本の国際貢献とすることもできる。
874	研究者	経済産業省	高出力多波長複合レーザー加工開発プロジェクト	この施策は直ちに優先的に取り組むべき極めて重要かつ革新性の高い技術開発になるものと考えます。 なぜならば、今日、低炭素社会の実現に向けて以下の２つの大きな転換が図られつつあるタイミングにあるためです。その２つとは、・構造物における金属はからより軽量な炭素繊維材料への転換、および、・ファイバーやレーザ	鉄をはじめとする金属は丈夫な構造物であり、現在のわれわれの生活を支えています。重いのが難点です。これに対して、炭素繊維材料は軽い上に金属以上の強度を有する新素材であるので車をはじめとするたくさんのが炭素繊維材料で作られることで大幅に軽くなり、省エネルギー、CO2 排出量の削減に貢献すると期待されます。ただし、その強さ故に加工が難しく先進的な技術が必要なため、現在はレーシングカーのようなコストをふんだんに掛けることの出来る極限

				ーダイオードの技術的進歩に基づいたレーザー光源の技術革新によるものづくり技術の転換、です。 レーザーによるものづくり技術においては、材料の性質に適合した光の波長や強度、または多重照射のタイミングなど多岐な技術開発要素があるため、光源開発からものづくり技術開発、製品製造に至る広い技術者、研究者を結集して開発に取り組む必要があり、集中的な取り組みが他国における開発に対して大きな優位性をもたらします。 この施策を実施し、他国に先駆けた技術開発を行うことで今後、ますます重要度の高くなる低炭素社会における産業技術において技術的な優位に立ち、我が国の産業の発展に寄与することができるものと期待します。	れた用途にしか使われていません。一般的な用途を拡大して行くには現在の成型による加工のみではなく、効率的な切断や穴開けによって多くの種類の部品を作るものづくり技術が必須です。 これに最も有望なのはレーザーを使った加工技術です。特に、近年の光ファイバーやレーザーダイオードの技術的進歩に基づいたレーザー光源の技術革新により、エネルギー利用効率が高められ、さらに、光の品質が高められた結果、極めて小さな点に光を集めて微細な加工ができるようになりつつあります。これらの進歩は材料の無駄を低減することに繋がります。また、レーザーを使うものづくり技術は光のエネルギーを使った環境負荷の低いクリーンなプロセスであり、低炭素社会における産業技術として早急に確立するべきものです。
875	研究者	文部科学省	次世代スーパーコンピュータの開発・利用	要求額に近い水準の予算を配分し、積極的に推進して頂きたい。	科学技術の最先端において、計算機を駆使した研究の重要性は一段と増している。例えば私自身が専門とする物質科学・工学分野では、ナノスケールでの物質の構造・物性の研究は実験計測技術とスーパーコンピュータを用いた理論的解析の両方が手を携えて進むことによって飛躍的に進展してきた。 近年の技術の高度化により、スーパーコンピュータを利用した研究においても、ソフトウェア開発・ハードウェア開発との緊密な連携が必要となってきた。この分野においてわが国の世界的なプレゼンスを保つためには、世界最高速クラスのスーパーコンピュータの開発を進めることがきわめて重要である。その中でしか、高い水準の技術は得られない。 この部分を日本が捨てること、または進展を停滞させることは、計算機を利用した広範な分野の研究において影響が懸念される。また、ハードウェア開発・ソフトウェア開発・科学研究はいずれも継続性が重要であり、1、2年の停滞は将来にわたって深刻な悪影響が懸念される点も配慮願いたい。
876	研究者	文部科学省	次世代スーパーコンピュータ戦略プログラム準備研究	要求額に近い水準の予算を配分し、積極的に推進して頂きたい。	計算機を駆使した研究は、22年度最重点政策課題「グリーンイノベーションの推進」および重点推進課題4「革新的技術の推進」において、ますます重要になってきている。特に、計算機ハードウェアの複雑化とともに、計算機を利用した研究とソフトウェア開発・ハードウェア開発との緊密な連携が必要となってきた。このことは、この分野における次世代人材の育成が今後の科学技術におけるわが国の世界的なプレゼンスを確保する上で大変重要であることを意味する。本施策は、計算機を利用した研究とソフトウェア開発・ハードウェア開発との緊密な連携、およびこの分野での人材育成にきわめて重要であるため、ぜひ推進いただきたい。
877	会社員	文部科学省	科学研究費補助金	増額、少なくとも現状維持すべきである。	優れた科学技術は、資源の少ない日本にとって最大の武器である。 戦後の日本の発展を、科学技術の向上を抜きに語ることはできず、今後も日本の発展を支える柱となることは確実である。 科学研究費補助金を削減することは、日本の発展を妨げることになるため、増額をすることはあっても、減額することは考えられない。
878	会社員	文部科学省	戦略的創造研究推進事業	増額、少なくとも現状維持すべきである。	科学技術の発展は、日本にとって必要不可欠である。 とくに、世界でトップレベルの研究を行い、各分野でイニシアティブをとることは、日本の国力をあげることに繋がる。 戦略的創造研究推進事業は、これを支えるものであり、減額は国力の低下に繋がりがかねない。
879	会社員	文部科学省	科学技術振興調整費	増額、少なくとも現状維持すべきである。	日本の大学などの優れた基礎研究を社会に還元するためには、応用研究に繋げることが重要であり、そのためにも企業との共同研究が必須である。 また、企業も大学との共同研究は、最先端の技術を

					取り入れ、製品とし、社会に貢献できる有効な手段となりうる。 科学技術振興調整費（特に先端融合領域イノベーション創出拠点の形成）は、それを支えるものであり、この研究費のおかげで大学と企業との距離が飛躍的に縮まった。 この研究費の減額は、基礎研究の社会への還元を妨げることになり、日本の発展を妨げることになってしまう。
880	その他	文部科学省	独立行政法人宇宙航空研究開発機構 1（GX ロケット）	予算削減に反対いたします。	GX ロケットは確かに開発が難航していると聞きます。ですが、液体エンジンの技術は今後とも宇宙開発において重要な物となるはず。仕分けとやら、我々国民が選んでいない人間の意見によって、技術開発に断絶が起きることは受け入れがたいと思います。 またプロジェクトを解散することにより、せっかく集まった技術者のコミュニティが崩壊します。知の集合は、多くの成果を生み出します。ですが、知の集合ほど難しいものはないはずです。 技術は連続性の上に成り立つことを、どうか念頭に置いていただきたいと思います。
881	その他	文部科学省	事業 25（独立行政法人宇宙航空研究開発機構 2（宇宙ステーション補給機（HTV））	予算削減に反対いたします。	はやぶさチームの不断的努力によって、先頃イオンエンジン D に不調を来した「はやぶさ」が、裏技的方法によって再度の加速を得て、現在 2010 年 6 月地球帰還に向けてがんばっております。 はやぶさは、人類史に残る小惑星への初着陸を行った機体です。 はやぶさ 2 計画は予算の少なさにより、中止の危機にあると伺っています。日本人が初めて行った小惑星への直の探索。この伝統を、多くの技術者が結集できるコミュニティを潰してしまっているのでしょうか。 夢で食えないと言われるかもしれませんが、夢こそが明日の活力です。夢こそが日本を明るくすると思います。 どうか、夢を見ない日本を作らないでください。 夢のある日本のために、宇宙開発の予算を削らないでください。むしろ、増額し ていただけるように、お願いいたします。 乱文電筆、失礼いたしました。 重ね重ね、どうか宇宙開発と日本の未来をお願いいたします。
882	その他	厚生労働省	難治性疾患克服研究	21 年度 100 億円になった予算が、22 年度 75.5 億円に減額要求になることは、今年度、新設された研究奨励分野などから調査や研究が、失速するのではないですか？ 全国には、難病に苦しむ人が沢山います。早く、難病の治療研究を遂行して、難病を治してほしいです。	私も、研究奨励分野に今年度、入った難病患者です。数字上の話ですが、とても不安でたまりません。
883	研究者	文部科学省	特別研究員事業	特別研究員事業への予算配分は優先度が非常に高い。	若手研究者が経済的不安を感じることなく研究に専念できる環境を整備することは、わが国の科学技術の発展と国民の豊かな生活のために必要不可欠です。 現状では有望な研究者であっても経済的理由、あるいは研究者の社会的地位が低いことにより研究内容が抑制を受けたり研究の道を断念せざるを得ないことが多々あり、今回の増額要求は決して無駄ではありません。

					今以上に広く研究の門戸を開け、若手研究者の栄達を促すためには文部科学省の増額要求は当然だと思います。 知的財産と人材の育成を推進する本事業の方針は、内閣府の理念にも沿うものと確信します。
884	研究者	文部科学省	大学院教育改革推進事業（うちグローバルCOEプログラム）	大学院教育改革推進事業（うちグローバルCOEプログラム）への予算配分は優先度が非常に高いと考えます。	研究の国際競争力を高めるためには、優秀な研究者を集め重点的な拠点形成を行うことが最も効果的です。 継続的な人材育成、及び研究交流のために文部科学省の要求経費は当然だと思います。 知的財産と人材の育成を推進する本事業の方針は、内閣府の理念にも沿うものと確信します。
885	研究者	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPRING-8）の運営体制の構築	そもそも、10年以上稼働し、国際的にも世界最高性能の評価を受け、運営が行われている施設に対して、それ自体を何かの製造装置と見立てたような判断が多数行われていることは理解に苦しみます。	そもそも分析・評価装置であるSPRING-8に対して収入の議論が多数あったことが理解できません。物資を製造している施設ではないため直接収入を得られる施設とは思えません。分析・評価の結果、最終的に生み出された利益を金銭化して評価すれば十分に投入に見合うアウトプットはあると思います。自身の経験でもDVD、半導体、蓄電池など10年ほど前のSPRING-8稼働当初に分析・評価していた物質の中に、現在商品として実用化されているものが多数あります。それ以外にも、タンパク質や新材料の研究など数年～数十年先には莫大な利益を生み出しうる分析・評価が行われていることが無視されているように見えます。
886	研究者	文部科学省	科学研究費補助金 若手研究（S）-若手研究（A）-若手研究（B）-特別研究員奨励費	予算削減に反対です。	競争的資金（若手研究育成）に関して、「若手研究者が安定して働き研究できる場所を見つけるための国の政策を若手にこだわらず再構築する」との評価コメントに関わらず、この点についても予算削減によって、制度改革ではなく若手研究費、若手研究者数の一律削減へと流れてしまう危険性を危惧します。また、現在の若手研究者の常勤職は非常に限られており、当事者である私も安定雇用に対する不安を抱いています。この上、競争的資金削減の実行により、近い将来、科学研究の衰退が危惧され、国策上にも多大な影響が出るものと思われます。
887	研究者	文部科学省	科学研究費補助金 特別推進研究、特定領域研究、新学術領域研究、基盤研究（S）	予算削減に反対です。	科学研究費補助金などの競争的資金は研究現場からの強い要請により、ボトムアップの形で発展してきた経緯があります。特に基礎科学研究の研究者にとっては数少ない研究費獲得の好機です。この制度は、日本の研究者が世界的規模の厳しい研究競争の現場に立ち向かっていくための支えであり、これらの競争的資金を削減すれば、日本の研究が遅れをとることに直結します。資源の乏しい我が国では科学技術を基盤とした産業が国力の基礎となっていますが、競争的資金の削減は必然的に将来の国益を損ねるものと考えます。
888	会社員	文部科学省	元素戦略	予算を削減すべきではない。	レアメタルは、現代のわたしたちに不可欠な電子機器類のほとんどに使われ、むしろ要になっているともいえます。 日本はレアメタル資源が乏しく、中国やオーストラリア、アフリカからの輸入に頼っています。そして、中国をはじめとして多くの国が、それらの資源の囲い込みをはじめたと聞きました。 もし世界情勢が不安になったとき、あるいは日本の国力が低下し現在の地位から転落したとき、どこの国が日本にレアメタルを分け与えてくれるのでしょうか。 電子機器類、モバイル機器類が必需品となった現代、この問題は食料自給率と同じくらい憂慮せねばならないと感じています。

					私には4才になる子供がおりますが、この子が大人になったとき、食料も乏しく、資源もなく科学技術力が弱っている…といったような「八方ふさがり」な日本であってはほしくありません。 地球環境、新エネルギーも重要ですが、日本自身が生き残るための科学技術振興も、絶対に外してはならないと思います。 さいわい、都市鉱山は世界一と聞いています。それらのリサイクル技術の確立は、日本にとって非常に有用ですし、いずれは世界に技術を広めることができ、世界貢献にもつながります。 また、レアメタル代替元素の研究は、レアメタルが有限である以上、これから電子機器類の継続的生産にとって不可欠ですし、一方では有害な場合も多いレアメタルですので、エコロジーや安全の観点からも進めるべきものです。 ぜひ政府には、本当に日本のためにすべき科学技術政策とは何かを、あらためて考え、事業仕分け等、ご判断いただきたいです。
889	会社員	経済産業省	次世代型ヒートポンプについて	次世代ヒートポンプの開発は実用的な研究開発であり、早急に技術を確立する必要があります。また、最重要政策課題の「環境と経済が両立する社会を目指すグリーンイノベーションの推進」にも合致しており、優先すべき科学技術施策に位置づけるのが妥当であると思います。	現在でもヒートポンプは広く利用されており、省エネルギーの切り札とも言われていますが、さらに効率の高い機器の開発、適用分野の拡大、空調システム全体としての工夫などにより、国内全体のエネルギー使用量を下げていくことが可能です。 ヒートポンプは既に広い分野で利用されていることから、実用的な研究成果が期待でき、即効的で大きな効果が期待できます。
890	団体職員	文部科学省	重粒子線がん治療研究	重点的に推進すべき研究と考える	重粒子線がん治療はQOLが高いことから、患者に優しく、且つ、難治がんにも効果がある。総合的に見ると医療費の削減をもたらすものであり、将来的に必要となる治療であると考えます。 また、日本の重粒子線がん治療研究は、世界のトップを走っており、この治療の牽引車としての役割を担っている。このため、国内はもとより、日本初の重粒子線治療技術を世界に展開する上では極めて有利な立場にある。従って、このチャンスを生かし、維持するためには重点的な推進が必要であり、ひいては世界への展開を推進することに繋がる。このことは、公的資金を真に国民に還元する事を意味する。
891	団体職員	厚生労働省	難治性疾患克服研究	いくつか疾患克服に近づいた研究について聞きました。ぜひ研究が続けられるように助成を続けて下さい。	難病（先天性ミオパチー）を患っているものの一人としてやっと光が見えてきたところです。ぜひ研究・薬製が諸機関で続けられていくようお願いいたします。日本のすぐれた研究者の方々のためにもお願いいたします。
892	研究者	文部科学省	特別研究員事業	行政刷新会議による事業仕分けの結果、若手科研費や学振研究員などの若手研究者支援予算が縮減される提案が打ち出されていることに対して、文部科学省の方から、基礎研究と応用研究の違いを明確に説明した反対意見を提出することを強く望みます。	今回のような行政刷新会議による事業仕分けにおいて、利益には直結しにくいものの、知的好奇心を踏まえた人材育成を担う基礎研究と、利益追求がメインの応用研究との区別を曖昧にしたままの一方的な議論を踏まえて、国の科学技術の基盤を担うべき若手研究者の必要性がこのまま軽視されてしまうことは良くないと考えるため。
893	研究者	文部科学省	大学院教育改革推進事業（うちグローバルCOEプログラム）	事業仕分けにおける『大学院教育改革推進事業（うちグローバルCOEプログラム）』の経費削減に反対します。	将来の我が国の科学の発展のためには、若い研究者の育成が必須である。 特に大学院博士課程の学生を育成することが 重要であることは明らかであり、そのためには、資金的な援助が必要不可欠である。 このGCOEのお金は、将来のわが国の科学技術を担う若い大学院生のために使われるものであるが、このような資金なしでは、科学技術の進歩もないと思う。

					また、GCOEなどの資金を用いて、大学院博士課程の進学がより魅力的になり、多くの学生が、大学院進学を決断できるようにするべきである。 よって、本プログラムが継続するよう、真摯なご検討をよろしくお願いいたします。
894	研究者	文部科学省	振興調整費女性研究者支援モデル育成事業	事業仕分けの結果に強く反対します。	本事業に対する今回の事業仕分けの結果は、ようやくここまで高まってきた機運を壊してしまう判断であるため、強く反対します。覚悟を決めて女性を増やして成功を収めたアメリカから、さらに数十年も遅れをとることになります。理系を志す女子学生の減少にもつながると思います。科学技術立国を目指すためには、必要不可欠であり、後退させるわけにはいかない事業です。
895	公務員	厚生労働省	難治性疾患克服研究	新薬の開発	患者数が多くないと企業では採算がとれず、新薬の開発になかなか着手しようとなしない。国が十分な予算を組んで、開発援助として企業に提供すれば、良い新薬ができるのではないのでしょうか。
896	研究者	文部科学省	感染症研究国際ネットワーク推進プログラム	今回の評決には反対であります。 再考をよろしく御願い致します。	標記プログラムの事業仕分けの評決結果は、私個人の職務上の利害はございません。 しかし、感染症における我が国のリーダーシップと東南アジア・アフリカとのネットワークは新型インフルエンザ、高病原性トリインフルエンザ、HIV-1、デング熱をはじめ多くの感染症被害の未然防護と対応に大変重要なものであります。 昨今の我が国の経済状況をもって、その継続を途中で廃止と決定されることは大変残念であり、今後の防疫に対する強い危機感を抱いております。 今回のプログラム廃止決定が確定すれば、多くの知見、技術、データ、人的資源・ネットワーク、防疫システムの国家的体制作りに大きな損益・打撃を与えたいと思います。
897	研究者	文部科学省	次世代スーパーコンピュータ戦略プログラム準備研究	本項目は、他に並ぶ重要な案件よりも更に強力に推進する施策であると考えます。	次世代スパコンは科学技術の一つの要であり、現在、そしてこれからの科学技術の発展には欠くことのできない重要なものである。基礎学問的な役割は当然のこと、人々に直接わかりやすい形で利益が共有される。 鳩山首相が国連で演説された、温室効果ガス大幅削減という、人類として大きな利益を得ることができる素晴らしい政策も、次世代スパコンによる予測があつてより確かなものになると確信するからである。 そうした次世代スパコンの準備研究をすることは大変に意義深く、また緊急課題であると考えます。
898	研究者	文部科学省	次世代スーパーコンピュータの開発・利用	本項目は、他に並ぶ重要な案件よりも更に強力に推進する施策であると考えます。	次世代スパコンは科学技術の一つの要であり、現在、そしてこれからの科学技術の発展には欠くことのできない重要なものである。基礎学問的な役割は当然のこと、人々に直接わかりやすい形で利益が共有される。 鳩山首相が国連で演説された、温室効果ガス大幅削減という、人類として大きな利益を得ることができる素晴らしい政策も、次世代スパコンによる予測があつてより確かなものになると確信するからである。また同時に、第一与党である民主党の政策集にある「イノベーションを促す基礎研究成果の実用化環境の整備」に、本プロジェクトは完全に合致していると考えます。 そうした次世代スパコンの開発をすることは大変に意義深く、また緊急課題であると考えます。
899	研究者	文部科学省	特別研究員事業	本項目は、他に並ぶ重要な案件よりも継続していくべき施策であると考えます。	特別研究員制度は、民主党の政策集に掲げる「科学技術人材の育成強化」の理念と合致していると考えま

					す。また、「コンクリートから人へ」という言葉を鳩山首相の会見で何度か耳にしましたが、その発想からもこの事業を継続し、更によりよい形で進めていくことは重要かと思います。
900	研究者	文部科学省	事業番号3-21 競争的資金（若手研究育成）	若手人材育成（事業番号3-21 競争的資金（若手研究育成））の削減に反対いたします。	日本の科学技術、基礎研究の発展を支えているのは、大学院生、博士研究員（PD）です。私も2年前まで、特別研究員、科研費学術研究員制度により研究を続けてきておりました。その際に「命を削って」研究に打ち込めたお陰で、今の研究・教育職につながっております。微力ながらも現在は医師を目指す学生達にこれまで身に付けた知識、経験を教授する立場で頑張っております。これも若手人材育成支援があったおかげであります。 また、博士研究員の出口政策として始まったテニュアトラック制度で採択された人材は、いずれも世界で活躍するレベルの優秀な研究者です。 このような支援がなくなれば、優秀な若手研究者の海外への流出はまぬかれません。資源のない日本にとって、各分野で働く優秀な人材こそが資源であり、その流出が意味することは、国力の低下です。また、若手研究者支援をやめることにより、空白の世代ができることは簡単に予想できます。さらに若い世代に対しても科学への魅力が失われます。後継者のいない研究分野は崩壊し、科学技術立国としてなりたってきた日本に未来はありません。 最後に、特別研究員制度の削減理由に書かれているような、「ポストドクの生活保護のようなシステムはやめるべき。本人にとっても不幸。」などというコメントは誤った認識であります。支援を受けている間、寝食を惜しんで研究に打ち込んでいる研究員がほとんどであります。認識を改めて現状を見ていただきたいと存じます。支援をうけている博士研究員はもちろんのこと、優秀であるにも関わらず、ほとんど支援も受けずにバイトで食いつないでいる博士研究員が日本の研究をささえております。 以上、ご考慮いただけますよう、お願い申し上げます。
901	研究者	文部科学省	ナノテクノロジーネットワーク	本施策では、大学・研究機関の有する高度な分析機器やノウハウを活用することが可能であり、基礎研究を進展させる機会を提供する有意義なシステムであるため、施策の継続をお願い申し上げます。	ナノテクノロジーの急速な発展に伴い、より高度な分析機器を駆使した研究開発が必要となってきました。例えば、ナノ材料を観察するためには、数千万～数億円の電子顕微鏡が必要となりますが、このような専門的な分析手法は、投資額（装置購入、維持費、専任者の人件費など）が大きく、一般企業や研究者個人には負担が大きいため、研究の進展に大きな壁が生じてしまいます。 本施策は、大学・研究機関の有する機器と専門知識を活用することができるため、意欲ある研究テーマに対し活路を提供する有意義な方法であり、若手技術者のナノテクへのチャレンジを奮い立たせるよい機会となっております。 また、本施策について最も魅力的なところは、研究の現場で民間企業と大学の人材交流が図られており、最新のナノテク技術情報について、損得の勘定なしに自由で活発な意見交換ができる点です。 世界的にもナノテクの競争は激しく、技術大国である日本の技術力を高めるため、このような施策の一層の拡充が重要と考えます。
902	その他	厚生労働省	難治性疾患克服研究	難病の研究をもっと推進してほしい	私は難病指定にも入っていない難病に罹っています。進行性の筋肉の病気で治療法もまだなく将来への不安がなくなることはありませんが、気丈に振る舞う毎日です。 誰だって風邪などで長患いすれば、早く治りたいという思いは強くなるでしょうし、骨折などして体を動かす事

					が不自由になれば、早く治して元の生活に戻りたいと思うのが普通だと思います。一時の身体の不自由さに、誰もが皆、日頃、健康であることのありがたみを感じるはず。私の場合は現在、治したくても治らない病気ですが、今、治療法がなくても、治りたい、治したいと思う気持ちは、皆が病気をした時と同じです。 稀少疾患であるがゆえに治療への道は険しいのかもしれないませんが、希望をもって生きていけるよう難病対策をしっかりと考え行っていきたいと思っています。
903	会社員	文部科学省	免疫・アレルギー科学総合研究事業	アレルギーメカニズムの解明を進め、新薬の開発などにつなげてほしい。	自分の娘は、色々なアレルギーを持っており、生活に制限がある。人間の持った、知能を集結して、このメカニズムを徹底的に解明いただき、治療方法などにつなげてほしい。理研の公開フェスティバルに参加し、そういった活動をしていることを知りました。是非続けてほしいです。
904	会社員	文部科学省	免疫・アレルギー科学総合研究事業	がん治療に関する研究を推進してほしい	理研の免疫センターはがんの新療法を開拓していることを知っています。人間の大敵であるがんの治療につなげるべくがんばってほしい。 日本は、人口減少が課題だが、病気治療の研究は、国の発達にも寄与すると思う。
905	研究者	文部科学省	科学研究費補助金 そのほか研究費全般	無闇に研究費を削減することより、無駄を省くように制度を変更することが重要である。 問題は額面ではなく、使われ方にあることを認識すべき。	今回の事業仕分けの結果は、短期的な予算の削減ができ、世の中に対して「無駄」を省いたというインパクトを与えた点で評価できます。しかし、長期的な視点、特に教育、から見ると今回の措置は総合してマイナスになる可能性が大きいです。 一般的に無駄の多い研究現場で目立つ出費は ・ 無駄な人件費 ・ 無駄な大型外注作業 です。その他の消耗品や一般機器は人が居なければ操作、消費できません。つまり小額の無駄は、無駄な人材があつて初めて成立します。 無駄な人件費の典型例は、給料の順に、天下りに代表される年配の管理職、研究職、常勤職員、非常勤です。非常勤の職員は給料も低く成績がそのまま雇用に反映されるため、必然的に無駄が少ない部分です。 こうした状況で研究費を削った場合、何処から削られるでしょうか。 まず研究費、その次に維持費、それから人件費です。人件費の中でも、無駄が少ない人から解雇されます。つまり、無駄の少ないところから順に削られる構造になっています。研究費がなくては仕事ができず、維持費がなくては数年後にインフラが失われます。そして人件費の無駄は加速される一方です。 多くの意見が、「費用対効果や社会への貢献は基礎科学に当てはまらない」、「科学政策は長期的視点で」、という点に集中すると思いますが、これらは「従来の研究体制は無駄を孕みつつトータルで良い」という論旨で、間違っています。無駄は省くべきだからです。 無駄を省くには、予算の削減ではなく、研究者を取りまく環境、評価体制の変革が必要です。例えば、科研費を含むほぼ全ての研究費の成果欄には論文リストしか書かせていません。また出版した論文そのものではなく、論文誌のグレードや評価で研究内容を評価する体制がJSTや文科省に蔓延しています。査読誌以外の著書や執筆をカウントしないもの問題です。これ

					こそ、改革すべき部分です。 なぜ研究をせず、内容も理解しない上司が論文業績を増やせるのか。 なぜ仕事もない窓際事務職がパーマメント雇用なのか。 なぜ高額機械を購入ばかりして無駄使いする研究が評価されるのか。 こうした構造的な不具合を直さない限り、予算を削っても無駄は増える一方です。そもそも多くの研究者は営利目的で研究してはいません。平均すれば世の中のために考える優秀な人材が多いはず。そうした集団がどうして無駄な研究を行なうのか。それは研究費や業績評価の「目標設定」がそうになっているからです。 優秀な研究者の能力を活かすのにお金は要りません。制度を変えるだけで済むのです。 例として国策として取るべき対応を挙げてみます： - 論文の単なる本数だけでなく、研究費あたりの本数を計算させる。 - 研究費の報告書、評価欄に、「社会的貢献（わかりやすいデータの公開を含む）」という項目を設ける。 - 研究で得た内容、データの公開を義務付ける。 - 教育活動（学生による評価や出張授業等）や一般向け書物の執筆活動を、高く評価する。 これらはほとんどコストをかけずに実施できるはずです。予算をカットして研究者の不平不満を買い、若手の夢を潰しては、「日本の研究は終わった」といつて無駄遣いが助長されるだけです。社会への貢献や費用対効果を目指すなら、研究者としての評価体制にそれらを組み込むだけで済むのです。 これらの理由で、現在の制度を変えずしてコストだけ削減するのはそれこそ無駄を生む政策でしょう。
906	研究者	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPring-8）の運営体制の構築	企業研究者の立場から、SPring-8 の大幅な予算削減は絶対反対で、むしろこういう不況の時期こそ、予算を増額して、企業研究の根拠を支えるべき。	国家の科学技術を支える研究所は、製品を売って利益を上げる民間企業とは異なり、高い科学技術の持続と長期的な運営が必要であることは明白で、急激な予算削減はデメリットしかない。高い技術を得意とする日本企業は、不況で研究費を削減せざるを得なくなっており、さらに、根拠を支える国の研究所の技術水準を低下・消滅させることは、企業全体の技術水準の低下につながり、誰も日本製品を買わなくなる。SPring-8 は、企業の利用が多いため、不況の時期こそ、エコカー減税や家電ポイントと同様に、SPring-8 の予算を増やし、日本の技術を支えるべきだと思う。
907	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	数学者としての意見です。科学研究費は、少なくとも日本の数学研究においては、極めて重要な存在意義があり、より拡充する必要があります。現在の水準では、優れた研究者の研究計画が採択されない例を多く聞く状況であり、現状で不足ではあっても、過剰という事はないと思います。	数学研究においては、巨額の資金を投入しても研究成果が上がるとは限りません。その意味で、科学研究費補助金のようなシステムは、数学のような個人単位で行う事の多い理論研究に適した補助金制度と考えられます。また、採択のシステムも、理想的とは言えないにせよ、学術雑誌のレフェリー制度を範としたピアレビュー制度を取っており、比較的うまく機能していると思います。

					数学のような基礎科学においては、その「効果」というのは見えにくく、また短期的な評価は困難な部分です。しかし、「費用対効果」と言う点から見ても、比較的小額の研究資金を多数の研究者に分配するシステムとしての科学研究費補助金は、ピアレビュー制度のおかげで比較的健全に運営されており、長期的な業績評価が反映する優れたものであると考えられます。歴史的な実績も大きなものです。諸外国においても、同様の grant システムを取っている国はアメリカ合衆国など多く、ヨーロッパにも近年、類似の制度が導入されたところではあります。 審査システムには、外国人審査を取り入れるなどの改善の余地もあるとは思いますが、現時点でも、他の制度では代替する事の出来ない、貴重な制度であり、拡充が望まれるものと思います。
908	研究者	文部科学省	特別研究員事業	特別研究員事業は、数学などの理論科学研究においては、キャリアパスとして既に重要な位置にあり、特に、PD の拡充が望まれると考えます。	日本の数学研究の現状を見ると、数学者研究者の絶対数は、アメリカ、フランスなどの諸外国に比べて不足気味であり、数学研究の振興には更なる研究者数の増大が望まれるところです。しかし、数学者の育成には多大な時間がかかり、短期的な施策によって研究者数の増大を図る事は不可能であり、長期的な視野からの政策が必要です。 しかるに、現状の数学者研究者数に対しても、常勤の研究職・研究教育職のポスト数は不足気味です。そのため、若手研究者の多くは、学位取得後の数年は、特別研究員を代表とする有期の職を経て、常勤の職を得る事が少なくありません。そのような意味で、特別研究員は、すでにキャリアパスとしての重要な位置を占めており、諸外国におけるポストドクトラル・フェローと同様に機能しています。違う側面から見ると、学位を得た（数学研究能力を持つ）数学者研究者のすべてが、学位取得時にその才能を十分に発揮できているとは限りません。数学は成熟した学問分野であり、どのように優れた才能を持っていたとしても、才能を発揮できるまでに長い時間がかかる場合は珍しくありません。学位取得後の数年における自由な時間の多い特別研究員時代に、優れた才能を開花させる場合も多く見られます。そのような経過を経て、（しばしば特別研究員の任期途中で）常勤の研究者としてのポストに就く例が多く見られます。 特別研究員に採用されても、優れた研究者に成長しない例もあるわけですが、研究者育成と言う営みには避けられないものであり、制度の問題点というのは、間違っていると思われる。もちろん、制度に改良の余地はあるにせよ、ピアレビューを主体とした採択システムも、比較的良く機能していると考えています。 以上の点から考えて、特別研究員制度、特に PD の制度の拡充は、数学研究の進行を計る上で極めて必要性の高いものと考えます。
909	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	一般の研究者の日常の糧である科学研究費補助金は、目的志向の大型プロジェクトとは大きく性格が異なるため、それらを比較し優先度を判定することは適切でない。	科学技術における革命は、各々の科学者がそれぞれの興味に従って研究をした結果、予想もしなかったところから起きることが多い。特定のイノベーションを狙って資源を配分したからといって必ず起きるという訳ではないのである。例えば、地震予知や核融合炉は未だに実現していない。確かにエコ技術など今後必要不可欠である分野を重点的に扱うことは重要なことであろう。しかし、そうしたプロジェクト型の資金と、多種多様な研究者の日々の糧である科学研究費補助金を同じ土俵に上げて優先度を判定するというのは間違いである。これらの資金はまったく別の性格のものであり、一方を増やすためにもう一方を減らすということになれば、科学の進展にとって不幸なことだ。
910	研究者	文部科学省	特別研究員事業	特別研究員事業は若手研究者育成のために必要不可欠なものであり、縮減すべきでない。	欧米の大学院生・ポスドクは、多少の労働の見返りとして、大学から返済義務のない奨学金を受け取って生活している。他方、わが国の大学院生は借金やアルバイトをしながらの研究生活を強いられている。ポスドクの就職口も少ない。学生・ポスドクへのサポートは現在でもまったく足りておらず、この上削られるようなことになれば、研究者を目指そうとする優秀な学生はいなくなってしまうだろう。
911	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	科学技術関係施策において、科学研究費補助金は真っ先に確保されるべきです。	現状の先端研究では、科学研究費補助金がなければ基礎研究を推進することはほぼ不可能です。日本が

					科学技術で成り立つ国であり、基礎研究なくして将来の技術革新はありえない以上、どのようなイノベーションを目指すのであれ、科学研究費補助金は増やしこそすれ減らしてはいけません。
912	研究者	文部科学省	海外特別研究員事業	予算は縮減すべきではありません。	ポスドクとは独立研究者の第一歩であり、生きた英語や国際社会での研究競争力を身につけた研究者になるには、海外でのポスドク経験は重要な意味を持ちます。また、有能な日本人研究者の働くさまを身近で見た海外研究者は、その高い意識と能力に感銘を受け、その後も日本人研究者を雇い入れる例が多くあります。このように海外特別研究員事業は、日本人研究者への国際的な評価を高め、海外での研究を幅を広げる一助ともなっており、この制度への予算を縮減すれば、研究者の意欲と国際意識を減衰させるのみならず、日本人研究者の国際的な地位を下げ、直接的にも間接的にも日本人研究者の国際競争力を下げることに繋がります。
913	研究者	文部科学省	特別研究員事業	予算を削るべきではありません。	裕福ではない家の出身者が博士課程に進んで研究をするには、外部資金による保護が必須です。その保護がなければ、生活費のためにアルバイトをせざるを得ず、日々の研究に没頭することはできません。その結果、思うように成果が出せなくなり、ひいては業績が足りないために研究補助金やポスドク先を得ることができない、という悪循環が始まることも往々にしてあります。若手研究者の始まりが博士課程である以上、未来の科学技術立国を担う有能な人材を特別研究員として確保することは、その後数十年の科学レベルを決定する必須事項です。
914	研究者	文部科学省	本格的利用機に適した大型放射光施設（SPRING-8）の運営体制の構築	SPRING-8 の予算減提案に反対します。 以下の理由をご勘案いただき、予算縮減の白紙撤回をお願いします。	SPRING-8 の研究員です。 組織と関係なく、個人的に意見します。 SPRING-8 を良く知る研究者の一意見としてお汲み取りいただければ幸いです。 私は 7 年前に X 線を使った磁性材料研究を更に発展させるために、東京大学の助手を退職し、SPRING-8 に着任しました。 私の取り組む研究は、ハードディスクの高密度化に関する研究に役立っています。また、現在はハイブリットカーのモーター磁石の性能を高めるために、磁石の製作過程で何が起きている、何が問題であるかを調査する手法の技術開発を行っています。その中で、世界ではじめて、その基礎実験に成功しています。中国からの希土類元素に頼らないことの実現や日本の CO2 排出削減の役に立ちたいと抱負しています。 SPRING-8 を見回せば、既に多くの研究成果が創出されており、また、今後とも我が国の物質研究にとって大きな役割を果たしています。しかし、成果とは別に、年々予算を縮減されて、もはや枯渇寸前の状態まで達していると感じています。 大きな危機感をもって意見しますが、重要なことは、 ・SPRING-8 は世界最高性能を維持していること。 ・収益を問うべきものでなく、国益は研究成果という形で与えられること。 ・世界一であることは、成果の宝箱であること。例えるなら、手つかずの松茸林に入ること。 ・砒素事件でも明らかのように、犯罪発生抑止力になっていること。何万人の捜査員を投入するよりも効果的なこともあります。 ・科学技術力の基盤を維持することは、我々が子供達

					が将来国際競争のなかで生き抜いていくための貯蓄であり、短期的な手当とは異なる質の価値があります。 ・科学技術を政治的パフォーマンスの道具にしないように平にお願いいたします。
915	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	科学研究補助金縮減に反対します。	科学研究費補助金は、研究者が独自の研究アイデアを応募書類の形で示し、その申請に対して研究予算を配分するシステムであると理解しています。公平性と透明性の高いものだと感じます。 一方、最近は科学研究費補助金のような競争的資金を獲得し、研究を行うことが必須の風潮となっています。つまり、研究者が所属機関からの研究支援を受けられなくなっていることになります。 したがって、科学研究費補助金が縮減されれば、研究者が研究できなくなり、全体のアクティビティーが下がります。
916	研究者	厚生労働省	優良児童劇巡回等事業	判定結果が導出された経緯に不信感があります。とりまとめ役を交代して、再検討が必要だと思います。	10名中6名の委員が廃止等の意見だったと報道で耳にしています。とりまとめ役の議員の方が、「政治判断で予算要求通りとした」とお話されていました。透明性がうたい文句だった今回の会議のなかで、極めて不信感を抱く説明でした。
917	その他	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPring-8）の運営体制の構築	13日の行政刷新会議事業の仕分で、SPring-8の予算の1/3-1/2の削減がありSPring-8で放射光実験ができなくなる危険性があるのに対し反対します。	現在、私の研究室ではSPring-8の設備を用い様々な研究を行っており、そのことにより基礎物理の解明や新たな分析技術の開発など世界に誇る成果を次々と出しております。 また私共以外でも企業やその他の研究機関などが次々と成果が出ております。 以上より、SPring-8の予算削減により日本の研究のレベルは大幅に下がるため反対します。
918	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	予算の縮減に絶対に反対です。	これからこの資源もなく人口も減っていく日本という国を支えていくのが科学技術であるということは間違っていないはずです。 トップレベルの科学技術を発展維持させていくためには、それを担う若手研究者を育成・支援することが不可欠であり、科学研究費補助金が必須です。この予算が縮減されるようだと、日本から若手研究者が全くなりかねることでしょう。 この事業の予算縮減に反対です。 よろしくお願いいたします。
919	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	これまで以上に充実すべきである	科学者が自由な発想で研究を進めるためのもっとも基盤的な補助金であり、多様な知識基盤を支える。予測を超えた未来の変化に対応するためには、多様な価値観から生じた知識を蓄積する必要がある。1000粒の種をまかなければ果実の収穫はない。
920	研究者	文部科学省	特別研究員事業	必ず継続すべきである。特に、プロジェクトが少ない人文社会系や、理系理論系分野において。	プロジェクトに付随する研究員は、あくまで参画するプロジェクトの重要性によって選ばれるが、研究を始めたばかりの研究者本人の資質によってキャリアの第一歩を確保できる大切な制度である。特別研究員はもっとも優秀な若手研究者の最初の職としての位置づけが確立しており、これをなくせば、研究者は育たない。 プロジェクトが少ない人文社会系や、理系理論系分野においては、特別研究員がほぼ唯一のキャリアパスである。
921	研究者	文部科学省	戦略的基礎科学研究強化プログラム	日本が人類社会をささえる知識基盤を先導的に構築するために重要な施策である	短期的な成果を求めるプロジェクト形式は、飛躍的な発想になじまない。長期プロジェクトとそれに見合った評価によって日本発信の知識基盤が生まれる、これまでにない施策提案である。
922	研究者	文部科学省	特別研究員事業	この中で、特に出産等による研究のからの復元者への支援金が必要です。女性が子供を	多様な人材が自然科学の分野では必要とされているからです。国際水準からみても低い女性研究者の%

				生んでも研究が続けられる環境を作る事が政府のやるべき事です。	を増加させる為にもなるはずですから。
923	研究者	文部科学省	海外特別研究員	最近、フルブライト海外特別研究員は自然科学を含まないので、日本政府自身が若手を海外に送る必要があります。更に若い国外からの研究者（ポスドク等）を受け入れる必要も有ります。	若い時代に、海外での研究経験をもつ事が、帰国後の発展に役立ちます。（私の体験から）
924	研究者	文部科学省	大学院教育改革推進事業	大学院教育改革推進事業（グローバル COE プログラム）は継続実施すべきで、予算削減の対象にははいけません。	現在、日本の国公立大学の博士課程に進学する人の経済状況を注視して欲しい。この事を議論する前にまず言いたいのは、博士課程（特に激しい競争がなされている分野）に進学する学生はアルバイトをする時間は皆無という事であり、この事を知らない人は現場を全く理解していないと言わざるを得ない。現在、極めて一般的な博士課程進学者、例えば医学系博士課程（四年間）進学者の金銭的な収入源は、日本学生支援機構からいただく奨学金と各大学の TA、RA の二つに大別される（日本学術振興機構の特別研究員並びに他の返済不要の奨学金は極めて狭き門であるため、現実的ではない）。このうち日本学生支援機構からの奨学金は返還が必須であり、奨学金とは名ばかりのいわゆる「借金」である事を強調しなければならない。博士課程修了までこの奨学金をもらい続けると、一か月 128000 円 × 12 カ月 × 4 年間（医学系）＝ 6144000 円となり、博士課程修了と同時に 600 万円以上の借金を背負う事となる。さらに、これは無利子の場合であり、年率 3% の利子が付加される事も珍しくない。しかも、月 128000 円では東京の大学の場合、家賃だけで（低く見積もって）平均 7 万円かかり生活するのは困難であるため、各大学からの TA や RA を頼りにする事となる。各大学の TA や RA は通常月 2～6 万円であるものの定員が決まっており、通常博士課程の上の人から順に受給する。物価、地価が低い地方大学だと、これで十分かもしれないが、大都市近辺では上記の収入では生きていけないのは自明である。 これに対し、グローバル COE の RA は通常月約 10 万円支給され、十分とは言えないものの経済的に極めて助けとなっている事を元学生として強調したい。むしろ、これがなくなって他の奨学金がない得られない場合、どのようにして博士課程の学生は生きていけば良いのか？ また、修了と同時に 600 万円以上の借金を背負ってかつ、生きていくのが厳しい博士課程に一体誰が進学しようと思うのか？ を聞きたい（一般的に、博士課程に進学する人は変わっていると言われる所以である）。 グローバル COE プログラムは経済的な援助だけでなく、国際的に重要な研究を行っている研究者を講演者として招待する事もでき、エキサイティングな講演を身近に聞く事ができる。さらに、博士課程の学生の英語での発表練習等、国際的な研究者を育成するための教育的なプログラム、国際的に活躍するポスドクの受け皿として、極めて効果的に機能していると肌で感じている。現在、国際的に活躍する研究者を育成するための大学院教育大学院教育は声高に叫ばれているが、現場の博士課程進学、在学する学生のニーズに応えられる事業はグローバル COE プログラム以外に見当たらないのではないかとこのプログラムを縮小、削減する事は、すなわち博士課程に進学する学生が減少し、「日本の大学院教育の質の低下」に直結する事は想像するに難くない。基礎研究者育成を目指す日本の現在の政策に逆行する行為と言えるだろう。 以上の理由により、大学院教育改革推進事業（グローバル COE プログラム）は継続実施すべきで、予算削減の対象にははいけません。
925	研究者	文部科学省	ポストドクター等の参画による研究支援体制の強化	優先度が高い施策であると思います。同時に、もっと長期的な計画も必要かと思っています。	現在、ポスドクターはほとんどが短期雇用であり、このような不安定な状況の中で、十分な研究活動が制限されてしまっていることは明解であります。優れた研究者も、もっている能力を活かすことができない状況です。このような状況を解決するための支援は必須であると思います。ただ、一時的にポスドクターの就職口を増やすだけでは、何の改善にもならないと思われるので、もっと長期的な計画が必要と思われます。
926	その他	文部科学省	実践型研究リーダー養成事業	近年の博士課程の充実により、博士号を持つオーバードクターは各分野で増加している。一	博士号所有者は、その過程において問題発見、立案能力、遂行力、コミュニケーション力、プレゼンテーショ

				方、博士号所有者の受け皿は非常に限定的であり、子どもの数の低下により大学のポストも減少している。博士号所有者の能力を生かし、研究分野とそれを用いて開発する民間との橋渡しをするようなポストが今後増えていくことにより、博士号所有者、民間企業、研究機関の3者が互いに協力することにより、全者が利益を得ることが可能となる制度であると考ええる。	ン力と包括的な能力に対しての鍛錬、実践の場を多く与えられている。これらには、博士号ひとりに対して、多くの税金を投資したことによって得られた成果ともいえる。現実、多くの博士号所有者が持っている能力を生かせずに職を求めており、これを解決するためには早い段階からのキャリアパスの育成が不可欠と考えられる。
927	その他	文部科学省	特別研究員事業	この制度は、決して若手研究者への生活保護、セーフティネットではなく、競争的獲得資金である。優秀な若手を国内から、研究開発分野から流出させないことに一定の成果を挙げていると考える。また、PDに関しては、他の事業（COE、博士研究員）で雇用される博士号所有者と異なり、他者からの制約を受けずに本人の自主性、計画性、実行力を発揮することができる唯一無二の事業である。この事業によって素晴らしい成果を果たした研究者の数は多いと考える。ぜひ、この事業を今後も続けていただき、若手研究者の育成に力を入れ、科学技術、学術分野の発展を担っていただきたい。	特別研究員は選ばれた、少数のもののみが得ることができる資金であり、博士課程の学生及び博士号取得者が獲得を目的とする事業である。この資金を獲得した者のアクティビティは非常に高く、今後の日本の学術分野を牽引していく人材の育成に十分な貢献をしているのは想像にかたくない。現実問題として、博士号取得後すぐに定職を得ることのできるものの数は非常に限られており、研究者を希望するものは、自分の研究分野にうまくマッチする求人が出るまで何らかの形で研究に携わることが必要になる。そのようなものが採用され、獲得することのできる資金のうち、本事業でのPDは研究内容に関して、他者からの制約を受けることがなく本人の発想、能力を最大限に生かすことのできる事業であり、多くの研究者を志願する博士号取得者がこの事業で採用され、資金を獲得することを望む。このようなものの中から、優秀だがタイミングとして常勤職のポストを得ることができなかったものに研究の機会を与えるこの事業によって、若手の海外への流出も防いでいると考えられる。この分野への減額は、博士号取得者の未来への希望を奪う行為である。さらには、博士号取得後に希望を失わせるに十分なインパクトがあり、ひいては日本の近い将来の学術分野、科学技術分野の喪失を意味する。日本は資源のない国であり、技術や知識が財産である。これらを世界のトップレベルと張り合えるだけの人材を育成するためにもぜひこの事業の有用性を理解していただきたい。
928	その他	文部科学省	次世代スーパーコンピュータの開発・利用	スーパーコンピュータの開発をとめるのは、技術のない日本が世界と戦うためには自殺行為であると考ええる。	この分野において、日本は世界でトップクラスの能力を持っている。しかし、現在予算を縮小することで開発スピードが遅くなれば、すぐに他国の開発においていかれることだろう。現在、日本が先進国と呼ばれ、他国の追随を許さないのは、技術水準が高い国であるから以外の理由はない。資源も持たず、農作物の自給率も低い日本は、科学技術分野において他国に負けるのは、国家の敗北に等しい。また、スーパーコンピュータの技術を国内でまかなえることのアドバンテージは非常に大きく、今後の科学技術の開発に大きな影響を与えるだろう。この分野での国際競争が激化する中、スーパーコンピュータを用いたシミュレーションはバイオテクノロジーやナノデバイス開発など、将来的に国民生活につながる最先端の技術開発における主要な武器になっているほか、基礎科学の研究においても、スーパーコンピュータによって宇宙の誕生から物質の創生、銀河や星の形成にいたる宇宙の歴史全体を理解することが可能になりつつあるといい、開発への期待は大きい。科学技術立国を目指す日本は開発をやめるのは、その立場を捨てるも同然である。他国で開発したものを利用したほうがよいという意見もあるが、費用が高騰することが見込まれ、自国で作成、アレンジできるようにすることが重要となる。
929	研究者	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPring-8）の運営体制の構築	本施策に賛成します。 先日行われた事業仕分け結果にとらわれることなく、実行を希望します。	放射光は基礎科学から産業応用、医学利用まで幅広く研究に使用できる他に見ることのできないツールである。 加速器を利用するため、大規模施設になることは避けられないが、上記のように幅広い分野に対応できるため、国家が直接的、間接的に運営に関わり、税金を投入することは十分に意義がある。 また、昨今の短期的な成果主義や、事業仕分けで見られたような成果を金銭でしか見ないことは多くの研究にはそぐわない。 民間企業の研究のように直接的に利益を追求するための研究を除くと、研究成果を公表し後続の研究が実利を結ぶことが基礎研究の目的の一翼と考えれば、研究者からの利用料金を取らなければ運営できない

					公営研究施設の存在は国家の恥であろう。 以上の理由から施策を賛成します。
930	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	科学研究費補助金は科学技術関連予算の中でも最優先であり、予算を縮減するべきではなく、むしろより増額するべきである。	自然・人文・社会の全分野について、「研究者の自由な発想」に基づく研究を可能としているのは、科研費に依るところが大きい。ニーズに基づく研究は産業界の支援を受けて行うことができるが、シーズを生み出す研究は国の支援を受けて大学・公的研究機関が行う他に道は無い。昨今の経済不況の中で、大学・公的研究機関でも短期的な利益の創出が求められるが、これを理由に研究の幅が狭められ、ニーズに基づく短期的な利益の観点だけで研究分野の選択と集中が行われてしまうと、日本の未来の科学は骨抜きになってしまうことを危惧している。経済不況下だからこそ、より長期的な観点に立つて「研究者の自由な発想」を国として支援することは、資源配分方針に挙げられた全ての政策課題に影響し、科学技術立国としての日本に大きく寄与するはずであると考えている。
931	研究者	文部科学省	特別研究員事業	特別研究員事業は科学技術関連予算の中でも、科研費と並び最優先であり、予算を縮減するべきではなく、むしろより増額するべきである。また、もし特別研究員事業を見直すのであれば、その代替策を用意するべきである。	人文・社会を含む全ての科学技術の成果は装置や施設、プロジェクトが生み出すのではなく、そこに携わる人が生み出すものである。そして、実際に研究に従事する主力は、教授や主任研究員ではなく、博士の学生や博士研究員（PD）である。学生やPDの能力や努力がそのまま日本から生み出される研究成果の質に直結する以上、特別研究員事業を通して、国が若手研究者の育成・支援に取り組むことは、中長期的に見れば、日本の国益に必ず適うと考えている。仮に、現在の特別研究員事業の育成・支援の枠組みに不備があるとするならば、単に事業を縮減・中止するのではなく、より効率的で効果的な施策を政治レベルで打ち出し、断絶せずに切り替えるべきである。
932	研究者	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPring-8）の運営体制の構築	SPring-8 事業は予算を減額するべきではなく、むしろより増額するべきである	SPring-8 は生物・物理・化学など多岐に渡る科学分野の研究遂行にとって、必須かつ代替不可能な施設であり、ここに予算を投入することは SPring-8 を利用する多様な研究の全てを後押しすることになる。基礎生物学分野に限っても、SPring-8 によって可能となる構造生物学と呼ばれる研究は現代生物学の根幹を担う分野であり、基礎生物学の中でも優先度が高い。また、成果は基礎科学だけでなく産業応用にも直結する。このような状況で SPring-8 でこれまでに生み出された成果は数も多く、質も高く評価されている。 SPring-8 は、グリーンイノベーション推進に必要となる研究開発や重点的に推進すべき課題となる 5 項目、そして基盤的課題である基盤研究の強化、人材育成の強化など、資源配分方針の多くに関わる施設であり、日本の科学技術施設としてより一層の予算投入が望ましいと考えている。
933	その他	文部科学省	免疫・アレルギー科学総合研究事業	免疫やアレルギーに関する研究に対して国でしっかり支援していただきたい。予算を減らさずに増やしてはどうでしょうか。 花粉症やアレルギーなどの研究は健やかな生活を送る上で非常に大切だと思います。	以前、テレビで理化学研究所の免疫の谷口先生がアレルギーについて説明していらっしゃるのを見て、その説明に深く頷けました。 私の子どもと私自身、アトピー、アレルギーでいつも苦しんでおります。病院にかかっている、対処療法のみとなっており出口が見えず毎日辛いです。 アレルギーについてはまだ未知の部分が多いということで、なるべく早く、その根本的な原因が分かることを望んでおります。 アレルギーの解明の研究を国でしているということは、私にとって心の支えのようなものでありますので、ぜひ支援の強化をお願いします。
934	その他	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPring-8）の運営体制の構築	SPring-8 を用いた研究の必要性がまだまだあります。 独立行政法人理化学研究所に対する補助金、単なる大学の寄付金になっている研究でもありません。 各省庁で同じ様な研究に予算を取っているモノと同じ扱いにしないでください。	SPring-8 は、物理の判らない人間にとっても存在価値、これからの有用性は判ります。SPring-8 を使って研究できるのは、研究者にとって希望であり、研究の力です。 こんなところからチマチマ削るなら、予算規模の大きい厚生労働省や環境省の予算を削ってください。

935	その他	文部科学省	次世代スーパーコンピュータ戦略プログラム準備研究	このパソコンが無いと何もできない時代に、予算削減なんですか。	同じ様な研究を行っている場合もありますが、それだけの予算を掛けてもお釣りの来る事ですよ。 お役所の人間って、本当の価値をわかろうとしていない、だけなんじゃないかな？
936	研究者	文部科学省	先端研究	先端研究研究の大幅削減の再検討を強く望みます。	天然資源が乏しい我が国において、科学技術は我が国の産業、経済を支える基盤であります。先端研究から生み出される知的財産が長いスパンの後、人類の福祉、健康に貢献することは昨年度の下村脩先生のノーベル賞受賞でも証明されています。 少数の有識者による短期間の議論により、将来、国家の致命傷になりかねない政策が実施されることに多いに危険を感じ政策の見直しを望みます。
937	研究者	文部科学省	若手育成研究	若手育成研究の予算削減の再検討を強く望みます。	若手により萌芽研究は将来大きく花を開く可能性を秘めています。 現在、私は研究員という立場で研究させていただいていますが、若手研究費の削減がなくなれば科学を断念するか、アメリカに移住し科学を行うことを考えています。 今回、発表された政策は賛同する面もあります。しかし若手に研究の機会を与えるという、つまり十分の研究費を確保するという点に関しては再検討をお願いしたいと思います。
938	研究者	経済産業省	次世代ロボット知能化技術開発プロジェクト	1. 日本の産業力に関して、強いものをより強くする方策を採るべきであり、ロボット将来技術研究への投資は、他の事業に優先して強化すべきもので減らすのは疑問である。 2. 類似の機能の統合との状況が示されているが、単なる統合ではなく、重点投資する意義のあるコンソーシアム以外は、減額ないし契約解除としてはどうか。 3. RTミドルウェアとその開発環境について、国家予算を投じてフリーソフトを活用したフリーソフトの開発を行っている点が疑問で、これは中止すべき。せめて国産フルスクラッチ開発とうのなら理解はできる。なにより、本事業は、これまでにない知能化技術の基礎研究開発に軸足を移すべき。	本事業は中間評価が終了し、意義のある研究開発を進めるコンソーシアムとそうでないコンソーシアムが、現実の話として、仕分けできているはずである。それに従った冷徹な判断ができると考える。 また、仔細に渡る中間評価委員発言録を公開することで、本事業の真価が国民に問えるといえる。 たこの足を自ら食するたこのような、婦女子を盾にした、ばらまき政策は廃止し、本事業のような、日本の明日を担うに足る事業こそを強化すべきである。
939	研究者	経済産業省	生活支援ロボット実用化プロジェクト	本事業は縮退すべきである。	産業用ロボットに比して生活支援ロボットの市場規模は誤差範囲にすぎず、10年レンジでも市場が立ち上がる気配はなく、ライジングレートで市場が拡大する気配もないため、現時点での投資は国プロとしてもリスクが高く、時期尚早である。 いわゆるヒューマノイドロボット研究は出口も意義もとぼしいのが産業界の定説となり、一部の研究機関と大学が食いつなぐための、研究のための研究を支援する余裕は、ここ数年のわが国にはないと考える。
940	研究者	文部科学省	特別研究員事業	予算の現状維持、もしくは増大を図るべき	実際の研究の現場において、手を動かしてデータを出しているのは、まぎれもなく、学部4年～ポストドクの若手なのです。特に大学院生は無給で働いているに等しい者が多く、奨学金という名の借金を増やしながら研究に動んでいるのが現状です。 経済的に不安定な生活環境は、若手が研究に専念できる土壌を育むものでなく、その芽を枯らしてしまうこととなります。 若手を安い給料（もしくは無給）で食いつぶしていくのが、日本が目指す科学政策なのではないでしょうか。

					シンガポールやヨーロッパなどの海外に目を向けられ、今、科学技術政策で何をすべきかはおのずと見えてくるはずで。 欧米のように厳しい博士号取得基準を設ければ、企業も博士号取得者を即戦力として迎える構えが、次第に整ってゆくとも思います。それは将来的に、ポストドク問題などを解決する糸口になりうるものです。 さらに、「若手支援」というような、ポストドクの生活保護ともいべき政策は廃止すべきだ。」とおっしゃられた仕分け人がいましたが、彼は現状を全く理解できていません。ポストドクの中でもさらに優秀なものが選考を通じて予算を手にするのであって、「（職のない者に与えられる）生活保護」という理解は非常に不適切です。 もし、今回の仕分け作業での削減が現実のものとなってしまうと、優秀な若手研究者の海外流出は避けられません。現状ですら、海外を自分の研究の場であるとし、そこでポストに就くものは多いのです。（ノーベル賞受賞者の下村博士、南部博士は、より研究環境の整ったアメリカでポストを得ています。） どうか、今回の削減ありきとも云える仕分け作業の結果が、現実のものとならないことを祈るばかりでございます。
941	研究者	文部科学省	特別研究員事業	予算の縮減の決定に対して、見直しを求める。	「特別研究員事業」について、現状を全く把握できていない議論が行われていたことに、強い失望感を感じています。 この制度は、我が国の科学技術の将来を担う有望な若手研究者を「極めて厳格な審査」を通して選出し、研究活動を支援するものであるはずで。PDの場合、その倍率は約10倍にもなります。誰にでも簡単に支給されるものでは、決してありません。 それが、どうして「過保護」あるいは「セーフティーネット」という言葉で片付けられているのでしょうか？ 連舩議員は「ポストドクであることが本人にとっても不幸」と話しを締めくくっていましたが、それはポストドクの存在が「我が国にとって不幸な存在である」ということなのでしょうか？ 仕分け人の意見の中で「成果目標」や「追跡調査」の必要性や、ポストドクの受け入れ先の問題などが述べられていました。確かにこれらの点については、今後議論を重ねていく必要があるように思います。しかし、その結論がどうして「予算の縮減」になるのでしょうか？ 予算の縮減することが、この問題の解決に繋がるとは、とうてい思えません。 天然資源の少ない我が国は、科学技術の面で世界をリードしていく必要があるはずで。それにもかかわらず、今回の「事業仕分け」にて、科学技術部門の多くの事業が次々に「縮減」および「廃止」へと追い込まれている現状に大変、失望しています。数千億円もの予算が、アフガニスタンの復興支援や発展途上国の温暖化対策の支援に当てられるようですが、膨大なお金をそのままプレゼントすることだけが、海外支援ではないと思います。
942	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	最優先すべき事業と考えます。	自然科学研究は我が国の将来を支える重要な項目であり、科学研究費補助金はその基盤となるため。
943	研究者	文部科学省	科学技術振興調整費	最優先すべき事業と考えます。	若手研究者の支援は我が国の将来を支える重要な項目であり、科学技術振興調整費はその基盤となるため。
944	研究者	文部科学省	ナショナルバイ	最優先すべき事業と考えます。	昨今、ゲノムを読むことにかかるコストが飛躍的に縮

		学省	オリソースプロジェクト		小されており、今後は、どのような生物に着目しその遺伝的資源を活かすことを考えるかが国家的戦略として重要になると思われます。そのため各国で自国の生物資源を保護し、例え研究目的であっても他国への持ち出しを禁ずる動きがつかまっています。そのため、我が国でも自国のバイオリソースを手厚く保護することは大変重要だと考えます。
945	研究者	文部科学省	特別研究員事業	重要な事業であり、着実に実施すべきである	これから日本の科学技術のさらなる発展を担っていく若手の研究者が、少ない額ながらも研究や経済的支援の受け、その支援額以上の研究成果をもたらしてきている。 特別研究員は、第一線で活躍している研究者による選考により選ばれるものであり、日本国内のトップクラスの若手研究者であると見ることもできる。 人材育成は長期的な視点で考える必要があり、現時点で若手研究者の育成を抑制することは、将来の日本のすばらしい科学技術などを低下させるだけである。
946	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	重要な事業であり、着実に実施すべきである	日本の高度な科学技術を維持し、さらに将来的に発展させていく上で、科学研究を支えていく施策である。 また、基礎の発展なくして、応用は難しい。
947	研究者	文部科学省	ナショナルバイオリソースプロジェクト	重要な事業であり、着実に実施すべきである	国の施策として立ち上がるまで、生物資源は各大学、各研究機関の単独の研究室が保管してきた。 しかしながら、このような状況では、研究実施に際して必要な生物資源が国内に存在していようと、学術雑誌などで情報として知ることが出来なければ、利用することができない。 また、個別に保管していることにより、ひとつの資源を保存するために、余剰の費用がかかってしまう。 中核機関などで生物資源を収集し、また、利用者の負担を必要以上に費用のかからない状況で行うことが、日本国内だけでなく、世界に対して注目され、学術的交流がさかんになる施策になる。
948	団体職員	文部科学省	次世代スーパーコンピュータ戦略プログラム準備研究	予算計上見送りに対しては反対です。	専門外のものですが、こういった日本が先進性を発揮できる高い可能性を持った分野から身を引くのは、単純にもったいないことだと思っております。 標記施策の仕分け作業をすべて拝聴いたしました。連携機関の多さや研究成果を応用する分野の広さすら、十分に考慮されていたとは思えません。 スパコン開発の持つ可能性をもっと議論すべきです。
949	研究者	文部科学省	次世代スーパーコンピュータ戦略プログラム準備研究	理論・シミュレーションを用いた物質・材料研究分野を大いに振興すべきである。次世代スーパーコンピュータ戦略プログラムは停滞させるべきではなく積極的に後押しすべきである。	物質・材料・デバイス・プロセス開発研究の現場では、探索すべき可能性が爆発的に増加しており、実験室レベルの経験とカンのみで開発研究を成功裏に成就する事は不可能に近くなっています。その事により物質シミュレーション技術に対する期待が非常に高まっています。2007年ノーベル物理学賞を受賞したFertとGruenberg等の巨大磁気抵抗（GMR）素子に端を発したトンネル・マグネト・レジスタンス（TMR）素子の開発研究を例にお話致します：2004年頃に非常に大きな性能向上が達成されていますが、その成功が物質シミュレーションにより予言されていた指針に実験家が従った事により実現したという事実は、開発者自身も述べていて、有名な話となっています。 TMR素子を用いた磁気メモリーは不揮発性メモリーとして、省電力に寄与する環境対応型メモリーとして有望です。この例からも解るとおり（一般にまだ良く理解されていませんが）シミュレーション研究の技術的・社会的な意義は非常に高いのです。シミュレーションにおける境界条件や計算精度を開発現場の現実物質・デバイスに近づけようとすればするほど（予言確度を上げようとしたり、より記述の難しい現象をシミュレートしようとすればするほど）、より高速のスーパーコンピューターが必要になります。 CO2削減に重要な太陽電池、燃料電池、風力発電などの代替エネルギー源は光、化学エネルギーや動力

					を電気に変えるデバイスを用いますが、それらで中心的な役割を果たしているのは物質材料でのエネルギー変換プロセスです。現状では非常に無駄が多く、多くの自然エネルギーが変換過程で熱として捨てられています。持続可能な社会を技術面から支える為に、より高い変換効率をもったデバイスを開発して行く事は、今後非常に重要な鍵になって来ると思います。そのようなエネルギーデバイス開発においても、先ほどの TMR の例と同様に、シミュレーションが果たす役割は非常に広かつ重要であるという事は明白です。これらの問題は TMR での伝導問題よりも複雑で難しいため、より高性能なスーパーコンピュータが必要なのです。 アメリカ、ヨーロッパ、中国、他の国々がこぞってスーパーコンピュータ開発に熱心なのは、それを利用して国力を高めようとしている為で（各々の国ごと利用目的の軍事・民生の比重は違いますが）、もし日本が環境技術で世界をリードしたいと考えるならば、物質材料シミュレーションに投資しないのは自己矛盾です。投資せずに、成果の果実だけを期待されてもなにも出てきません。スーパーコンピュータなどを適宜投入する事により、他の国から桁違いに悪い計算機環境に苦しむこの分野の研究者の研究を後押しすることが環境技術の非連続的な変革につながると考えます。
950	その他	文部科学省	科学研究費補助金 若手研究（S）-若手研究（A）-若手研究（B）-特別研究員奨励費	科学研究費補助金 若手研究（S）-若手研究（A）-若手研究（B）-特別研究員奨励費の予算の削減に反対します。	他の先進国に比べ日本は、大学院生、若手研究者への支援が不足しているにもかかわらず、これをさらに削減するのは非常に問題である。資源の無いこの国が、世界で幅をきかせることができるのは、その高い研究成果、技術力を評価されているからであることを、忘れないでいただきたい。これからの日本の科学技術の発展を担う、若手研究者への支援を疎かにすることは国家の基盤を破壊することに等しい。
951	その他	文部科学省	科学研究費補助金 特別推進研究、特定領域研究、新学術領域研究、基盤研究（S）	科学研究費補助金 特別推進研究、特定領域研究、新学術領域研究、基盤研究（S）の予算の削減に反対します。	資源の無いこの国が、世界で幅をきかせることができるのは、その高い研究成果、技術力を評価されているからであることを、忘れないでいただきたい。
952	研究者	文部科学省	科学技術振興調整費	「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」予算を含む科学技術振興調整費の縮減を即時撤回し、今一度、十分なる時間と 現実をよく理解したメンバーの精査のもとに再検討がなされることを強く要求するよう、要請いたします。	実際に採用されている者の、現場の意見として申し上げたいと思います。 私が今回の仕分け事業に反対するのは、決して自分の予算が削減され、いただく分が少なくなる、ということのみが理由ではありません（現行の仕分け事業のやり方にはそもそもすべて反対です）。 反対理由の一つは、まず第一に、上記の若手研究者予算は駆け込み予算や執行前でなく、既に2年近く実行されている長期計画であり、この一部を減額するというは契約不履行に近いものであると考えているからです。その縮減に対して明確な理由の説明がなされているとは考えられません。 私たちは自分の研究室を運営するにあたり、審査を通過し、予算執行の厳密な規則に則り（これ自体は当然のことです）、さらに1円でも無駄を少なくするように思案を巡らしながら物品を購入しております。それでも十分とはいえ、研究室必需品のいくつか（ラップフィルムや洗剤など）は自費で購入しているのが現状です。そのような研究者は少ないと思います。 その上で、お前たちの研究は無駄であり子供手当のために縮減すべき、というのは説明になっていないと思います。 第二に、これは既に他の多くの研究者によって指摘さ

					れていることとありますが、上記若手研究者の予算は、若手研究者の支援のみならず、テニュアトラック制度という新たな人材登用制度を日本に導入し、根付かせるための布石となっていることです。これは旧態依然とした日本の研究者社会の人材登用制度（いわゆる徒弟的な制度）を廃止し有望な若手に研究活動を通じて活躍する機会を与えるものであるはずで、また、「米国の制度をそのまま取り入れているため日本になじんでいないのでは」という仕分け人の指摘がありましたが、これは完全なる誤解で、少なくとも私の勤める信州大学では、従来の雇用制度とのマッチングをはかること、制度終了時のキャリアパス、学内での同意を得ること、などに関して最大限の努力が払われております。 最後に、私がこの制度に反対する最大の理由として、研究室を構成し、有力な支援をしてくれる最大のメンバーである学生たちのことを申し上げたいと思います。 私たちテニュアトラック教員は皆そうだと思いますが、採用された時点で少なくとも向こう4～5年の長期的なビジョンを持って研究室を運営しようと考えます。その間に当然学生も入室してきます。私たちの研究室運営の予算を突如削減されることは、私たち自身の損害というよりもむしろ、（何ら非のない）学生たちの研究活動・学生生活に深刻な打撃を与えることになります。これはひいては日本の将来を担う若者の人生に、違うかたちで多大なる不利益を与えることになっており、現政権の「コンクリートから人へ」「子供たちの支援」といった政権公約の正反対をいくものであると考えます。 仕分け人の皆様は何かといえば、「目的が明確ではない」という発言をなされますが、私たちは研究の成果を学術論文・学会発表という形で年に数回以上発表しており、その成果は他の研究者（企業を含む）に少なからぬ回数引用されていることが明らかとなっています。これはひいては製品開発などの参考になっているということであり、社会に還元されていると考えてよいのではないかと思います。いかがでしょうか？
953	研究者	文部科学省	女性研究者支援システム改革	潜在的科学技術人材の育成・発掘および科学技術人材の多様性確保の観点から、女性研究者支援はいっそう積極的に行われべきである。	大学や研究機関は、あからさな女性差別はほとんどないが、ミクロな差別や結果的な差別が多々ある。研究テーマの設定から研究方法などにビルドインされたジェンダー・バイアスのために評価されなかったり採用や昇進を見送られる女性研究者を目の当たりにしてきた。また、大学というシステムじたいがメイルドミナントな職場であり、各大学が両立支援やポジティブアクションに取り組むことを促すことが必要である。
954	会社員	経済産業省	次世代型ヒートポンプについて	ヒートポンプは複数のメーカーが特異技術を有しており、それらを統合したときの相乗効果により革新的な技術開発が期待できます。技術的知見を統合するためにも、国家プロジェクトとして次世代ヒートポンプの技術開発を推進することが是非とも必要です。	ヒートポンプは大気熱エネルギーを利用するシステムで省エネルギーに優れた機器です。毎年のように効率の高い新製品が販売されており、今後技術開発によってさらに効率の高いシステムが登場してくるものと思います。国家プロジェクトにより複数のメーカーが持つ技術的知見を集めることによりブレークスルーが期待できます。このためにも補助金などの技術開発支援は、他の基礎的研究よりも優先すべきであると思います。
955	研究者	文部科学省	特別研究員事業	特別研究員は、民間企業ではできない、基礎学問を志し、その中でも相当な倍率を勝ちぬいて、得られるポストである。 日本の将来を人材重視、科学研究重視で行うのであれば、この事業を縮減することは、避け	学術振興会の特別研究員制度は、「ポストクの生活保護のようなシステム」でもなければ、「博士取得者のセーフティーネット事業」とは全く異なるものである。

				るべきである。	「なぜドクターを出た人間だけ、これだけ特別扱いされるのか私はちょっと不思議で。 つまり社会的に需要ないのに供給過多にできてしまっ て、それは個人の戦略が間違っていたというわけでも ありましてですね。 たとえば普通に大学でて、なかなか就職みつからない 人間に生活保護を与えるのかというのと同じ話でドク ターをとった人間だけなぜこうやって生活を守ってあげ ないといけないのか、基本的にあんまり僕は理解でき ないですね。 政策的に間違いがあって、その分の償いとしてやって る、というのなら理解できますけれども。 あまりここにそんなにお金をかける必要なくて、まあ個 人的な意見ですけども、自然淘汰に任せればいい のではないかと」 という意見は、同意できません。 社会的に需要ないのに供給過多にしたのは、政策で ある。しかも、それは、ポストドクのポストが少ないの が問題であって、ポストドク数が欧米諸国に比して、多 いとはいえない。 ポストドクは研究推進の中心となっている。欧米では当 然のこと。ポストドクをへらして、博士学生だけで、世界 と互角に戦う研究を行えというのが、日本の求める姿 勢なのか？それでなくても、国全体としての研究資金 は、日本はアメリカより、ずいぶん少ないというのは公 然の事実である。 日本の将来を人材重視、科学研究重視で行わなけれ ば、未来はきわめて厳しいものとなるのは簡単に予想 できる。
956	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	科学研究費補助金はさらに増額すべきであり、減少させてはならない。個人ベースでの補助金により研究	個人のアイデアベースでにより研究を推進できる唯一 といっていい制度である。基礎研究は多様性により成 り立っているため、この制度を弱めることは、長期的に 見て日本の科学技術の足腰を弱め、成長を絶つこと になる。
957	研究者	文部科学省	大学院教育改革推進事業（うちグローバルCOEプログラム）	グローバル COE プログラムの強化を求める。	基礎研究に携わる将来ある大学院博士課程の経済 的支援のみならず、世界の研究者と交流する機会を 作っている唯一の事業である。すぐ成果が出るという ものではないが、日本の科学のボトムアップに貢献す る。スポーツと同じで、若いうちに世界を経験すること は大事である。
958	その他	文部科学省	特別研究員事業	特別研究員事業について意見させて頂きたい と思います。 事業仕分けの評価コメントには納得するところ もあり、これからの科学技術の発展には、若 手研究者が活躍できるようなシステム作りが 必要と考えています。しかしながら、若手研究 者育成を目的とした特別研究員事業を縮小す ることは、中長期的に見て将来の科学技術の 衰退をもたらす可能性が大きいと考えていま す。また、この若手研究者を育てるための特 別研究員事業が「生活保護」のようなものと捉 えられていることに憤りを感じています。	特別研究員（DC,PD）は、博士課程在学者や博士号 取得者全員が与えられるものでなく、競争的に与えら れるものであるからです。これは研究遂行のための手 段であり目的とするものではないですが、博士課程在 学者にとっては、最初の研究費申請となり、この事業 があることで積極的に研究に取り組み、成果を出すモ チベーションになっていると思っています。そういった 意味でも、この特別研究員事業は、これから研究者と してやっていくために必要な経験を積むことができる 事業であると考えられます。以上の理由から、特別研 究員事業の予算縮減は望ましくないと考えます。
959	会社員	厚生労働省	難治性疾患克服研究	難病の治療研究をしてほしい。	本当に困られている方が身近に居ます。患者数が少 ないという理由で研究が遅れているのは納得できませ ん。
960	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	科学研究費補助金の削減に反対します。	昨今の科学技術の進展から、世界的に非常にレベル の高い研究成果が要求されるようになってきていま す。その中で他に先んじた成果を上げるには、研究環 境（設備・人材・資金・バックアップ体制 etc.）も一定 以上の水準であることが絶対条件となっています。そ の意味では、すでに現状において日本国内でその水 準に到達している研究グループは限られており、また

					その水準を維持し続けるためには、これまでよりも資金が必要となってくることが自明です。まして、これ以上の研究資金獲得機会の減少は、日本国内での研究のキャパシティの減少と同義です。他に上記の水準の底上げを明確に保証するような競争的資金獲得システムが提示されない限り、少なくとも現行レベルのチャンスが保証されることを、一研究者として強く要請します。
961	研究者	文部科学省	科学技術振興調整費：女性研究者支援システム改革	女性研究者支援システム改革をぜひ縮小せずに継続あるいはさらに発展していただきたいと思っています。現在この施策のおかげで、大学などの研究所等で、男女共同参画の素地が出来始めた段階と感じており、このような機運をここで取りつづされて良いのだろうか？と強く感じております。	私自身も本施策により、これまで育児の支援を受け研究を行ってきておりますが、国の支援があるということが、どれだけ精神的な支えや励みにになり研究をあきらめずに、続けてこれたかという点です。能力ある人ならば誰でも研究を続けて行けるという環境は非常に重要であり、それが若い研究者の育成にもつながっているということを認識していただきたいです。 女性研究者を増加するための施策も非常に重要であると考えます。先にも述べましたように、現状のことは将来につながることであります。現在の施策が縮小などのために女性教員（研究者）が増えなければ、やはり女子学生などの若い子は、女性教員（研究者）になることに對して夢が持てなくなりますし、増加をすることは不可能となり、研究の世界（理学・工学・農学系）は特に男性社会のままとなるでしょう。 また、これから日本は少子化による労働人口減少の問題もあり、研究分野だけでなく色々な分野で女性が活躍する（働く）ということが自然であるということになることが肝要と考えます。そのためにも、女性研究者が増えキャリアモデルとなることが重要であると考えます。
962	その他	文部科学省	科学技術振興調整費	削減に反対	日本の技術の向上において、若手研究者や女性研究者を育成することは重要だと思います。
963	その他	文部科学省	特別研究員事業	行政刷新会議において、予算の減額の判断が進められていますが、少なくとも現状維持、できれば増額をお願いします。	基礎研究は、多くの方々と言われるように、数年で成果がでるものではないと思います。しかし、人類にとっての大きな成果は基礎研究から生まれてきたと思います。私自身の専門である生物学の中では、DNAの塩基配列の発見が、医療、農業にもたらした影響は計り知れません。犯罪捜査、個人の証明、血縁関係の証明など社会生活の中でその成果をいくらかでも探することができます。また、日本の電気の主要な供給源になっている原子力発電は、物理学の基礎研究から生まれたと思います。 研究の成果は、最終的に1人あるいは数名の方々の成果として発表されますが、その過程においては、他の多くの人々の成果が下敷きあり、他の研究者との議論によってささえらえるものです。したがって、研究者の人材の確保は不可欠です。現在、博士号取得後にすぐに大学などの研究機関に就職し、研究できる人はほとんどいません。そういった中で、ポストドクの制度は必要だと思います。また、学術振興会の特別研究員あるいは大学などに採用された人たちは、同年代の博士号取得者のごくわずかにすぎません。研究を続けるチャンスを得る人の数を増やすこと、その人たちが自由に研究できることに予算を配分していただきたいと思います。そういった人たちが、将来の日本の科学の大きな成果を作っていくと思います。 かつてドイツは世界の中で科学とくに物理学をリードする国でした。しかしその没落は、基礎研究をないがしろにしたからであると朝永振一郎先生がおっしゃられています。日本が同じような道を歩まないために、基礎研究やそれに取り組む若い研究者を大切にしたいだと思います。
964	会社員	厚生労働省	難治性疾患克服研究	難病の研究費用を削らずに、ぜひとも治療の研究を続けていただき、早急に新しい薬が難病の方々に届くよう予算を決めていただきたいと願っております。よろしく願いいたします。	私の知り合いに「遠位型ミオパチー」という病気の方がいます。 治療薬があともう少しでできるかもしれない、というところまでできている、とお話を聞きましたが、新薬ができるまでに費用がとてもおかかるとのこと。早くお薬が届くことを願っています。

					「人の命を大切にする健康長寿社会」の実現とは、一人でも多くの方が明るい未来を望めるということではないでしょうか。そのためには、難病治療に対して重きを置いて、資源配分を考えたいと思っています。
965	その他	文部科学省	特別研究員事業	行政刷新会議において、予算の減額の判断が進められていますが、少なくとも現状維持、できれば増額をお願いします。	基礎研究は、多くの方々が言われるように、数年で成果がでるものではないと思います。しかし、人類にとっての大きな成果は基礎研究から生まれてきたと思います。私自身の専門である生物学の中では、DNAの塩基配列の発見が、医療、農業にもたらした影響は計り知れません。犯罪捜査、個人の証明、血縁関係の証明など社会生活の中でその成果をいくらかでも探すことができます。また、日本の電気の主要な供給源になっている原子力発電は、物理学の基礎研究から生まれたと思います。 研究の成果は、最終的に1人あるいは数名の方々の成果として発表されますが、その過程においては、他の多くの人々の成果が下敷きあり、他の研究者との議論によってささえられるものです。したがって、研究者の人材の確保は不可欠です。現在、博士号取得後にすぐに大学などの研究機関に就職し、研究できる人はほとんどいません。そういった中で、ポスドクの制度は必要だと思います。また、学術振興会の特別研究員あるいは大学などに採用された人たちは、同年代の博士号取得者のごくわずかにすぎません。研究を続けるチャンスを得る人の数を増やすこと、その人たちが自由に研究できることに予算を配分していただきたいと思います。そういった人たちが、将来の日本の科学の大きな成果を作っていくと思います。 かつてドイツは世界の中で科学とくに物理学をリードする国でした。しかしその没落は、基礎研究をないがしろにしたからであると朝永振一郎先生がおっしゃられています。日本が同じような道を歩まないために、基礎研究やそれに取り組む若い研究者を大切にしたいだと思います。
966	会社員	文部科学省	次世代スーパーコンピュータ戦略プログラム準備研究	予算削減反対	資源もないこの国で、どうやってこの先金を稼ぐつもりなのか？ 普通の農民なら、どんなに飢えても種蒔には手を出さない。 まっとうな会社なら、不況でもR研究の予算を削減するなどしない。絶対に。 アフガンにただで渡す金の支援やの何分の一ですか？ この額は？ そこまで日本の金がないとは言わせません。 そもそもその金すら、今までの積み重ねで稼いだ金だろうに。 即刻予算をつけ直すべきです。
967	研究者	文部科学省	脳科学研究戦略推進プログラム	1. 脳の情報処理機構を知り、その処理機構に基づいて、工学・情報科学と組み合わせることで脳の能力を拡大させる事ができる。脳を機械と結びつけるといったこれまでにない技術開発が見込まれ、人間の行動範囲・操作範囲を圧倒的に拡大させる事が期待できる。 2. 正常な脳の情報処理機構に基づき、精神疾患等の病態の脳の治療方法の開拓へと広がっていく。脳の病気の治療は、直接的に人の生活レベルを向上させる。	日本の脳科学は、世界の中で米国に次ぎ進んでいる。この状況を活かしてさらに研究を進めることで、今後も基礎研究の地盤や技術的状况において優位にたつことができる。 脳科学研究の発展により、正常な人の能力を向上させ、また、脳の病気を治癒させる。すなわち、脳科学研究の成果は全ての人に対して恩恵を与えるものである。
968	研究者		事業仕訳	民主党には科学技術に対する理解ある者がいないので、次回選挙は大敗であろう。	”蓮ぼう”議員や”仙石”議員では話にならない。
969	その他	文部科学省	大学院教育改革推進事業(うちグローバルCOEプログラム)	日本があらゆる学問分野において国際的競争に勝ち抜き、世界をリードしていける創造的な研究者・技術者養成のための教育拠点としての大学院に、より一層の継続的支援を強化して欲しい。	あらゆる学問分野において、今や世界各国は世界をリードして研究者養成のために、国をあげての支援強化に取り組んでいる。日本もこの激しい国際競争に勝ち抜くためには、創造的な研究者養成のために研究拠点としての大学院への支援を、より一層強化しなければならないと思われる。

970	その他	文部科学省	免疫・アレルギー科学総合研究事業	花粉症に対して効き目のある薬、ワクチン等を早く作って欲しい。	毎年、花粉症で2～3ヶ月間、苦しい思いをしています。天気予報といっしょに、花粉注意報がでる程、今や国民病ともいえる花粉症に対して有効な薬、ワクチンの開発・研究を一刻も早く進めて欲しいと思います。
971	研究者	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPring-8）の運営体制の構築	SPring-8 の運営予算は絶対に削減すべきではない。	SPring-8 は材料科学、生物、環境など、多岐に渡る分野で使われており、最先端の研究は SPring-8 なしでは成り立たないといっても過言がありません。 私自身、年に一度程度 SPring-8 を使用しておりますが、SPring-8 なしでは、得られなかった結果もあります。 日本の発展のために、SPring-8 は欠かせないと思います。 また、外国の研究者も使用しており、日本の国際的な地位の向上にも一役買っていると思いますし、SPring-8 の予算は主に旅費、装置、試薬の購入に用いられているため、内需拡大の効果もあります。 資源のない日本に優れた科学技術がなかったら、どのように国際社会で生き抜いていくのでしょうか？ 科学技術は一度遅れをとってしまうと、遅れを取り返すためには多大な努力が必要になります。 さらに、日本が優れた科学技術を有していることは、子供に科学を志すきっかけを与えることにもなると思います。 SPring8 の予算を削減することは百害あって一利なしだと思います。
972	研究者	文部科学省	世界トップレベル研究拠点形成	WP I 事業は、極東という地理的に文化的にハンデキャップのある地に、世界のトップとなりうる研究拠点を築こうとするものであり、研究者の頭脳の流れが日本から欧米へ、という従来型の流れにパラダイムシフトを起こし、欧米から日本へ、を引き起こしうる世界 2 番の経済大国にふさわしいプログラムであり日本の国益にかなったものである。	上記に書きました。
973	会社員	文部科学省	免疫・アレルギー科学総合研究事業	免疫・アレルギー科学総合研究センターの研究者の方々からのご協力は現在の業務に必要	製薬系企業で薬物の開発をしておりますが、理研の研究者の方々は、それが理研の役割だからと、特に見返りのようなものを求めることなく、惜しげなく私どもの業務に関する貴重なアドバイスをくださったり技術指導をしてくださったりしています。世界的にも最先端の研究をされておりますため、最新の知見などについても噛み砕いてわかりやすくご説明くださるので非常に助かっております。理研に所属される皆様に、産業の発展に貢献したいという意欲を常に感じております。
974	公務員	厚生労働省	難治性疾患克服研究	政権交代し、やっと弱い人たちに光がさすと喜んでいましたし、そのためにこれまで署名活動等頑張ってきました。それが予算削減なんて信じられません。是非、一筋の光明である難治性疾患克服研究の予算を削減しないで頂きたい。	今回の政権は、「コンクリートから人へ」が信条です。多くのムダを排することは大賛成です。しかし、希少難病のようにこれまで光が当たらず苦しんでおられる患者の方の姿を見ると、今回の予算削減は納得がいきません。特に、研究者として、利害を捨て地道に研究成果を出されている研究者の方も多くおられます。ここで中断すればそれこそムダ使いだと考えます。
975	研究者	文部科学省	女性研究者支援システム改革	表題の事業につきまして、予算削減に反対します。	女性研究者は実質的に出産して研究を断念するか研究継続して出産を断念するかを迫られてきました。 大学や研究施設で保育所の受け入れ態勢を整える等の環境整備は大前提ですが、それだけでは男性優遇は改善されません。 私自身、2回とも出産後は育児休暇をとらず、産後休暇後すぐに研究を始めました。出産による時間的デメリットの少ない男性研究者に負けないように成果を上げて、次の研究資金を獲得するためには育児休暇をとれませんでした。個人の能力とは無関係に、出産するだけで研究費獲得にはかなり不利だと感じました。研究を断念しようと思ったことも何度もあります。表題の事業が開始したときには、ようやく女性研究者もともに研究できるベースができたとうれしく思いました。

					出産経験のある女性研究者に研究費をつける支援を廃止されれば、研究を断念する女性研究者が増加するか、少子化を招くかのどちらかになるのは明らかです。 表題の事業の予算削減はようやく増え始めた女性研究者の芽を摘むことになります。 ご検討のほど切にお願いいたします。
976	その他	文部科学省	科学研究費補助金 2000億円	非人道的な、倫理に反する様な使い方を決してしない事。 他生物の邪魔、その生命活動の破壊に繋がる行為にならない様に特に気を付ける事。 生物多様性への研究を促進させる事。	科学の発展は使用方法によっては人間が地球で住んでいく上で地球生物全体に有益な結果をもたらす事も出来るものだと思います。反して、無益で後にとばっちりが来る様な使い方も出来る事は事実です。 動物倫理、福祉に関して、EUを見習い世界で恥じぬ様な人道的科学のあり方であって欲しいと思います。
977	研究者	文部科学省	大学院教育改革推進事業（うちグローバルCOE）	我が国の博士課程学生が、欧米の学生に比較して、研究能力などが低いという意見があるが、その要因は、かれらの能力が落ちるからではなく、その教育研究環境が影響している。 国際的・学際的視野、自主的研究推進環境などを支援することで、その能力養成がされれば、一人前の研究者として、世界中で専門分野の最前線で活躍できる人材が育成できるものと思われる。 グローバルCOEプログラムは、上記の教育環境整備を主要点としている予算であり、選抜された大学院学生を、将来のわが国のリーダーとして育成するためには、欠くべからざる予算であり、計画通りの執行を期待するものである。	大学への運営費交付金という通常予算は、主として研究あるいは教育施設などへの計上が主であり、学生個人の教育環境・研究活動・環境への支援という費目へは計上できない（しにくい）ものであった。このグローバルCOEは、それを具現化するためのものであり、またその計画中途であるので、「人材育成」という長期的な事業に相当するこの予算については、計画の成果がでるまでの執行を継続すべきである。
978	研究者	文部科学省	ポストドクター等の参画による研究支援体制の強化	優先度を高くしてほしい。	研究を現場で実際に遂行しているのはポストドクター等の若手である。研究レベルの維持に必要不可欠。ただし5年間とか短い期間で区切られたプログラムで人材が育つと考えにくく改善が必要である。ポストドクの使い捨てのようでモチベーションが下がる。
979	研究者	文部科学省	分子イメージング研究戦略推進プログラム	優先度を高くしてほしい。	研究の重要性は下村博士のノーベル賞で説明できる。分子イメージングは飛躍的に進歩している。その進歩を止めないことは重要である。
980	研究者	文部科学省	3 本格的利用期に適した大型放射光施設（SPring-8）の運営体制の構築	優先度を高くしてほしい。	お世話になっている研究者は民間、大学問わず多い。特に民間の利用者が増えたのは若手研究者のボランティア活動が始まりだったと聞いている。海外からの評価も高いことはご存知か？彼らの努力を無にすることがないように、むしろ支援を強化してほしい。
981	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	優先度を高くしてほしい。	削減反対！ほとんどの研究者は既に対費用効果をあげられるように努力している。昼夜問わず研究をしているのは、決して自分の興味だけではなく、頂戴した研究費（税金）を有効に使って恩返ししたいからだ。そのモチベーションを下げないでほしい。ただし、仕分けで指摘されていたように特定の研究者に多額の資金が集まっていることは問題だと思う。東大はじめ旧帝大に集中している。重点化するのではなく、広く配った方がよい研究ができると思う。また研究には継続性も大事なので（いきなり成果を上げることはできません）、不採択になったら研究ができなくなるような現在のシステム（大学からの給付金では研究に全く足りない）は問題だ。アメリカのグラントシステムに習ってピアレビュー制度にして、研究計画に問題があった場合に改善した申請書を作れば採択されるようになるとか工夫してほしい。
982	研究者	文部科学省	科学技術振興調整費	優先度を高くしてほしい。	若手や女性向けの支援を含んでおり、強化すべき課題だと考える。
983	研究者	文部科学省	外国人研究者受入れ環境整備促進	優先度を下げてください。削減してください。	金額が高すぎ。整備するというのが、それで外国人研究者が増えるとは思えない。

984	研究者	文部科学省	世界トップレベル研究拠点プログラム	再考してください。	費用を重点的に配っても、潤うのは機器業者でしょう。採択された所では、大型の機械がゴロゴロしている。ただし、この費用で多くの若手研究者が雇用されていることは見過ごせない。費用を削った場合、削除されるのは人件費でしょう。痛いのは若手だけです。このような期間限定のプログラムでヒトを雇用しても育ちません。改善を求めます。
985	研究者	文部科学省	大学院教育改革推進事業（うちグローバルCOEプログラム）	再考してください。	費用を重点的に配っても、潤うのは機器業者でしょう。採択された所では、大型の機械がゴロゴロしている。ただし、この費用で多くの若手研究者が雇用されていることは見過ごせない。費用を削った場合、削除されるのは人件費でしょう。痛いのは若手だけです。このような期間限定のプログラムでヒトを雇用しても育ちません。改善を求めます。
986	研究者	文部科学省	私立大学における教育・学術研究の充実	優先度を上げてください	強化してください。私立大学も立派な研究機関。国からの補助金が少ないのに対等に仕事をしている。支援すべき。
987	公務員	文部科学省	科学研究費補助金	科学研究費補助金に関する予算は、今後日本の科学技術の発展を支えていく基礎技術を生み出していく事業であるとともに、国公私立大学での基盤研究を支えるものである。本予算は現在よりも増額すべき予算であると考える。	本来新しい科学技術を生み出し、発展させていくには時間と費用がかかるものである。科学研究費補助金は、研究者の自発的な発想に基づくボトムアップ研究を支援し、創造的で新しい分野の開拓を行っていく基礎研究を支援している。また、大学における基礎研究は、運営交付金が十分に配分されていないことから科学研究費補助金等の競争的研究資金に依るところが大きく、科学研究費補助金等の競争的研究資金が大幅に削減されると大学での研究推進に大きな打撃を与える。また、大学での研究教育活動にも大きな支障をきたす。科学研究費補助金は日本の科学技術の基幹を支える研究を支援するものであり、将来の日本の科学技術の発展を考えるならば、欠かすことができない研究補助事業である。 また、若手で研究実績の少ない研究者がアブライできる競争的研究資金は少なく、科学研究費補助金はボトムアップな研究を支えるうえで、重要な研究費制度である。
988	研究者	文部科学省	脳科学研究戦略推進プログラム	優先度を上げてください	強化してください。ただし必要なのは資金ではなく人材です。長期展望を持って若手を育ててください。
989	研究者	文部科学省	脳科学総合研究事業（一部）	優先度を上げてください	強化してください。ただし必要なのは資金ではなく人材です。長期展望を持って若手を育ててください。
990	研究者	文部科学省	特別研究員事業	優先度を上げてください	強化してください。若手が比較的自由に研究できる唯一のプログラムであり重要。ただし内容は改善してほしい。採択率が低いのと支援期間が短いのが問題。採択者が東大帝大に偏っているのも問題。不公平感は未だ否めない。
991	研究者	文部科学省	理数系教員養成拠点構築事業	優先度を上げてください	理科離れは大変な問題です。
992	研究者	文部科学省	理科教育等設備整備費補助	優先度を上げてください	理科離れは大変な問題です。
993	研究者	文部科学省	大学院教育改革推進事業（うち組織的な大学院教育改革推進プログラム）	優先度を上げてください	強化してください。ただし、その前に、仕事をしていない常勤研究者（主に教授クラス）を仕分けてほしい。ろくに指導しない常勤研究者が目立ちます。
994	研究者	文部科学省	海外特別研究員事業	優先度を上げてください	強化してください。日本には、このほかに給料を保証する海外研究員事業がほとんどありませんので。民間財団に少しありますが、かなり限られています。
995	研究者	文部科学省	外国人研究者招へい・ネットワーク	優先度を上げてください	強化してほしい。たとえ短い滞在期間であったとしても、海外からの研究者との交流は研究を活性化させる。研究遂行に関しよいアドバイスをもらえることも多い。
996	研究者	文部科学省	科学技術振興調整費-女性研究者支援システム改革	予算要求通りの実施を強く望みます。	本来、夫婦共働きであれば立場は同等のはずだが、実際には、乳幼児の育児、子供の世話、また年寄りの介護などで、仕事をまず離れなければならないのは女性であることがほとんどである。保育所などの施設さえあれば研究を時間的量的に削った穴埋めになるのか。そんなことはない。保育所費用があって子育ての負担は軽減はしても、研究が十分にできず、それがために「女性研究者は、（短期間の！）ポストを与えた

					のに研究成果は出せない」というレッテルが貼られる。同様の状況が男性に対しても同頻度でおこると思えず、不当に女性研究者の地位を著しく下げることにつながる。これは女性研究者の不利、という問題にとどまらず、日本の科学者の全体的な質を低下させることにつながると考え、研究に不利な女性研究者に対して、研究に対する支援を強く求める。
997	研究者	文部科学省	女性研究者支援システム改革	女性研究者を支援する上で、研究費そのものは支援する必要はないと思います。 ただ、出産、育児や介護といったライフイベントにおいて実際に大きな役割を果たしているのは女性です。 研究活動は通常の職場よりも、長時間滞在する必要性があり、育児や介護へのサポートの必要性は他の業種以上に大きいものです。 しかし、直接的な支援ではなく、保育施設などの環境整備 間接的な支援を望みます。 サポートが必要なのはすでに研究者となっている女性だけではありません。 女子学生や、女性研究補助者、育児中の男性研究者も同様にサポートするものであってほしいと思います。 設置された保育機能やカウンセラーは学内の女子学生や、研究者以外の大学あるいは研究機関の職員や実験補助員にも利用出来るものであるべきだと思います。	研究を遂行しているのは研究者ですが、技官、実験補助員の大半は女性です。 科学に携わる女性を支援するという意味合いにおいてはこの人たちへの支援も必要です。
998	その他	厚生労働省	難治性疾患克服研究	難病の治療研究をしてほしい	自分自身が進行性の筋疾患の難病患者です。どうかお願いします。
999	その他	文部科学省	免疫アレルギー科学総合研究事業	がんや自己免疫疾患に対する新規治療法の研究開発に対する大幅な予算の増額希望する。	以前は免疫の研究をしていましたが、現在は臨床医をしています。今後の高齢化社会において医療費の増加は膨大であり、より低コストで効率のよい治療法の開発やワクチンの開発は必要であると考えます。この分野は基礎データの蓄積が重要で短期的に成果の得るものではありません。しかしながら他国の後塵を拝することは、その技術を買取るためのコストが必要となり長期的には損失となるでしょう。新しい技術を開発し、それを輸出することは将来の日本にとって大きな利益を生む金の卵であり、近視眼的な予算の削減は国益の損失であることを、どうかご理解ください。理研は日本の医学・生命科学の研究拠点であり、むしろ現在の世界情勢、またポストク問題を考えれば予算を増額すべきです。
1000	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	最優先と位置づけ、拡充を目指すべき	文科省の科学研究費補助金は日本の基礎科学に対する支援の中核をなしており、科学技術立国を目指す日本にとって欠かせない施策です。基礎科学の重要性は改めて語る必要がないほど明らかなですが、あえて説明するならば、現在大きな問題となっている地球温暖化の問題の発見が1861年にさかのぼり、それがごく基礎的な物理学の知見によって得られたことがあげられるでしょう。現在においても気候変動の予測は基礎的な物理学の方程式をコンピュータによって解くことによって得られており、基礎科学がわれわれの生命に直結していることを示しています。
1001	研究者	文部科学省	特別研究員事業	最優先と位置づけ、拡充を目指すべき	学振特別研究員事業によって多くの若手研究者が研究に専念できる環境を得、将来の研究者として成長しています。また、多くの基礎科学分野では若手による研究がその中核をなしており、彼らを支援することは将来の科学者を育てるだけでなく、ごく近年の科学研究を発展させることに直接つながっています。また、日本の大学院では経済支援を受けている大学院生が圧倒的に少なく、経済的に恵まれた者でないと高等教育を受けるのが難しい現状があります。こういった状況を是正するためにも、若手を支援する本施策は拡充されるべきです。
1002	会社員	文部科学省	大学院教育改革推進事業（うち	予算を削らないでにおいてあげて下さい。	研究機器は常に進歩しており、常にそれらを使いこなす人材を生み出すことが国際競争力をつけることにな

			グ		るから。
1003	会社員	文部科学省	免疫・アレルギー科学総合研究事業	免疫・アレルギーの研究は継続的に行なっていくべきです。	免疫不全やアレルギーに苦しむ人は年々増えており、その根治を目指すべく研究を続けて欲しい。
1004	その他	文部科学省	特別研究員事業100	今回の特別研究員制度事業予算削減の判定に反対です。	取りまとめ役の実態への誤認と言う実態があります。 評価委員たちがしきりに「ポストドクがあまっている」との話をしていました。 これはそもそも財務省会計局が提示した論点とズレた議論です。 さらに、競争的資金(若手研究育成)の大きな目的はこのようなセイフティーネットではありません。 優秀な(常勤研究者として生き残るべき)トップレベルの若手研究者を育成するためです。 議論の方向性と結果は一切一致していません。 このためこの判定は議論の内容が評価者の無知・勘違いによってずれているため本質を突いていないと考えられます。 そして、当然のことですが若手研究者の育成は重要であるはずで。 首相の所信表明演説にあった科学技術で世界をリードする旨、それは人材育成です。 それにも逆行しています。 事業仕分け評価員の強引な削減の解釈と無理解に抗議いたします。
1005	会社員	厚生労働省	難治性疾患克服研究	・難病の治療研究をしてほしい ・早く難病をなおしてほしい	実際、私の周りに難病指定を受けていない難病にかかっている方がいらつしや、人事とは思えないため。
1006	研究者	文部科学省	科学技術振興調整費(女性研究者支援システム改革)	予算削減に反対	日本のアカデミアにおける女性ファカルティの数が、欧米先進諸国に比べて著しく少ないことは周知ですが、この女性支援システムにおける予算が削減されることで、女性研究者の数が減るばかりでなく、日本の科学全体の推進が妨げられると考えます。
1007	研究者	環境省	循環型社会形成推進科学研究費補助金	レアメタル含有廃棄物からのレアメタルのリサイクル技術の開発は、わが国にとって緊急に対応すべき重要な課題である。	多くの高機能材料に必要な不可欠なレアメタルと総称される金属群は、日本国内では天然資源としては産出せず、海外からの輸入に頼っているのが現状である。しかもレアメタルに含まれる金属元素の多くは特定の国、地域に偏って存在し、それら国、地域の情勢次第で国内への安定的な供給は必ずしも保障されていない。また、多くのレアメタル元素を含む鉱石の品には年々低下し、将来的には膨大なエネルギーを費やしてそれら鉱石を製錬しなければならない状況が予想される。また、わが国にレアメタルを輸入するために海外においての鉱山開発による環境破壊という大きな問題も抱えている。天然の資源を保有しないがレアメタルを製品として大量に消費しているわが国において、上記に挙げたような問題に対応する上からも、国内に保有する廃棄物を含めた2次資源からのレアメタルリサイクル技術・システムの開発は必要不可欠なものである。
1008	会社員	文部科学省	ナノテクノロジーネットワーク	継続して文部科学省が推進してほしい施策だと思っています。	大学の施設を活用できるナノテク支援は非常に有効であり、研究開発を進めるにあたり、今後一層充実されるべきである。
1009	研究者	経済産業省	希少金属代替材料開発プロジェクト	資源対策やリサイクル技術の開発は長期的な視点で進めていくべきもので、我が国の戦略的な技術開発として極めて重要である。	我が国の次世代の産業・社会の持続的な発展のためには、多種多様な資源を必要としているが、これらの多くはその埋蔵量に限りがあり、また諸外国からの輸入に頼っているのが現状である。従って適正なリサイクルによる、これらの希少資源の有効利用は、今後の喫緊の課題である。

1010	研究者	文部科学省	元素戦略	資源対策やリサイクル技術の開発は長期的な視点で進めていくべきもので、我が国の戦略的な技術開発として極めて重要である。	我が国の次世代の産業・社会の持続的な発展のためには、多種多様な資源を必要としているが、これらの多くはその埋蔵量に限りがあり、また諸外国からの輸入に頼っているのが現状である。従って適正なりサイクルによる、これらの希少資源の有効利用は、今後の喫緊の課題である。
1011	研究者	環境省	循環型社会形成推進科学研究補助金	資源対策やリサイクル技術の開発は長期的な視点で進めていくべきもので、我が国の戦略的な技術開発として極めて重要である。	我が国の次世代の産業・社会の持続的な発展のためには、多種多様な資源を必要としているが、これらの多くはその埋蔵量に限りがあり、また諸外国からの輸入に頼っているのが現状である。従って適正なりサイクルによる、これらの希少資源の有効利用は、今後の喫緊の課題である。
1012	研究者	文部科学省	特別研究員事業	抜本的に今の任期付雇用を見直し、長期的雇用による研究システムの構築をお願いします。	とくにバイオサイエンス分野において、博士取得者のポストが足りないことが問題である。近年、大学や研究所で実際に研究を遂行している人たちは、任期切れにを恐れて挑戦的な研究ではなく、無難な研究を行わざるを得ません。モチベーションが下がっています。現在の研究活動レベルを維持するのであれば、大型研究費によるプロジェクト雇用や特別研究員のような任期の不安を伴うポストを廃止し、長期的に仕事ができる研究システム作りをお願いします。
1013	研究者	環境省	循環型社会形成推進科学研究補助金	使用済み製品等、廃棄物からのレアメタル回収技術に関して、早急に確立することが望まれます。本テーマの存続から、更なる加速を行うべきと考えます。 日本の技術立国としての立場の再構築のみならず世界の工場となっている東南アジアの諸国の静脈産業から派生する環境問題にも大きく貢献できると考えます。	このような広範囲な技術・製品・地域にまたがる対象に対して、民間企業レベルでの回収技術の開発はどうしても局所最適化に陥ってしまう可能性が大了。今求まれている地球温暖化などにも大きく影響するテーマであり、国家毎の戦略的な視点での開発が必須です。その中核を技術立国である我が国が率先して進めて行く上で本施策は必要不可欠と考えます。 局所的な経済性を追求した現在の静脈産業による環境破壊には、目を覆うものがあり、その一翼を日本も担っています。この課題を改善する上で、未来に健全な地球・自然を引き継ぐ上で、国内での循環型技術の開発の早期に必要と考えます。
1014	研究者	経済産業省	希少金属代替材料開発プロジェクト	産業のビタミンであるレアメタルの代替材料の開発は、自動車・電機等の日本の中核産業の今後の競争力を維持すること、すなわち技術立国として存在し続ける上で最重要課題です。その為には、本プロジェクトの存続から更なる加速を行うべきと考えます。	中国の資源戦略に屈しつつなる中で、資源を有さない我が国が技術立国として継続的繁栄を続ける上で希少金属（レアメタル）の代替材料の開発は必須と考えます。
1015	研究者	文部科学省	元素戦略	産業のビタミンであるレアメタルの代替材料の開発は、自動車・電機等の日本の中核産業の今後の競争力を維持すること、すなわち技術立国として存在し続ける上で最重要課題です。その為には、本プロジェクトの存続から更なる加速を行うべきと考えます。	地域偏在性の強い、埋蔵量/使用量が小さい金属などが、その特性から幅広く使用されており、これらの資源を有さない我が国が技術立国として継続的繁栄を続ける上でこれら希少金属の代替材料の開発は必須と考えます。
1016	公務員	文部科学省	地域科学技術振興・産学官連携	今回の事業仕分けにおいて、「地域科学技術振興・産学連携」の事業として廃止と判断された中に、「知的クラスター創成事業（第?期）」が含まれ、大変当惑しております。 私は「知的クラスター創成事業（第?期）」「ほくろく健康創造クラスター」（平成20年～平成24年度）におきまして「天然薬物の免疫制御を活用した医薬品シーズの開発」のプロジェクトリーダーを務めております。このプロジェクトでは私どもの富山大学大学院医学薬学研究部免疫バイオ・創薬探索研究講座（富山県寄附講座）と富山県薬事研究所が研究推進機関となり、協和発酵キリン（株）をはじめとする 富山県内外の製薬企業14社が研究協力機関を構成しています。そして、各研究協力企業と共同研究契約を締結し、植物（漢方処方、和漢生薬を含む）由来成分、新規化合物ライブラリー（市販および協力企業より提供）を利用し、世界で初めてのユニークな免疫制御評価系を利用して、アレルギーやがんの克服に利用可能な医薬品シーズの探索を	このたび、「事業仕分け」により我々の研究支援が打ち切られるとの報に接し、大変な驚きと残念さを禁じえません。その理由は4つあります。まず、プロジェクトを途中で打ち切られる悔しさです。私は、JETROが支援している国際会議で我々のプロジェクトを紹介し、海外の医薬品シーズの探索者から多くの賞賛と賛同、支援をいただけてきました。彼らになんと説明したらよいか、国際的な信義の問題です。2つ目は研究協力企業の皆様にいかように説明をすべきか、研究の中断を決断するのは辛いところです。研究進捗の中間評価もない状態で突然中止とは、なんとも乱暴です。少なくとももう一年継続し（予算を縮減しても）、今後の対応を考える時間を我々サイドにも与えていただきたい。3番目は、現在2人のポスドクを中心に研究者、研究補助員4名を採用し日夜懸命に研究を推進していますが、突然の事業中止は彼らの生活基盤をも奪うことにもつながります。4番目として、科学立国を標榜しているわが国に、理系の博士号を取得されております初めての総理大臣として、鳩山由紀夫総理大臣がご就任になりました。国内外の科学者や研究者は鳩山政権による新しいタイプの科学政策の推進を期待しています。事業仕分けにより、多くの科学研究費の削減、五年計画で順調に進んでいる産官学連携プロジェクトが政府・政党の一方的判断により2年目で霧散消失するというとなると、大いなる 期待に背きかねません。悪例になりはしないかと危惧します。

				しています。家内工業的なアプローチですが、これまでに8つの異なる評価系により1100以上の検体の一次スクリーニングを終えました。その結果として、アレルギー疾患やリウマチ治療薬、がん治療薬、糖尿病薬などの候補シークが100個以上見つかっています。研究開始2年目ですが、研究の進捗は順調であり、むしろ研究計画を上回るスピードです。そこで、平成22年度から疾患動物モデルを用いて個体レベルでの評価を開始する予定です。かなりの人力と経費が必要です。 大きな成果を生みつつある「知的クラスター創成事業（第2期）」の5年間の事業を予定通り推進することは少なくとも地方の大学や試験研究機関の活性化、人材育成とものづくり振興には必須です。事業の継続を切に要望いたします。	私は前任の東京大学での研究教育の現場から北陸地域に新たな活躍の場をいただき、地域の大きな期待に添いと思い、精進しています。当地に来て、地方大学の活力が衰えていることを実感しています。今回のような研究費削減は地方大学のますますの疲弊をもたらし、将来の日本のリーダー的な人材や資源の供給に悪影響を与えかねません。しいては、科学立国の基礎がゆるぎかねません。
1017	研究者	文部科学省	元素戦略	継続的な我が国の発展を実現する上で、資源問題は我が国が直面する大きな課題の一つであり、携帯電話、コンピュータ等の工業製品に使用されている多種の希少元素の確保（代替を含む）は我が国の国益の観点から極めて重要である。 そのため、本事業により、希少元素等の代替材料及び使用量低減技術の開発を着実に推進する必要がある、最優先に進める必要がある。	BRICSの台頭により今後さらに希少金属などの資源争奪が激化して行くことが予想され、対策を講じておくことは我が国にとって、急務であり、これを怠ることは国益を著しく損ねる結果となる。
1018	会社員	文部科学省	科学研究費補助金	上記の予算は減らすべきではない	日本には資源がなく、科学技術大国を維持することが経済力を保つためには必要不可欠である。 研究に必要な試薬類は少量でも価格が高く現状でも予算が足りない研究室も多い。 なおかつ、その研究結果は、一番最初に出せなければ無駄になってしまいます。今までの予算を無駄にしないためにも予算の維持及び増額が必要。
1019	会社員	文部科学省	戦略的創造研究推進事業 6	上記の予算は減らすべきではない	日本には資源がなく、科学技術大国を維持することが経済力を保つためには必要不可欠である。 研究に必要な試薬類は少量でも価格が高く現状でも予算が足りない研究室も多い。 なおかつ、その研究結果は、一番最初に出せなければ無駄になってしまいます。今までの予算を無駄にしないためにも予算の維持及び増額が必要。
1020	会社員	文部科学省	科学技術振興調整費	上記の予算は減らすべきではない	日本には資源がなく、科学技術大国を維持することが経済力を保つためには必要不可欠である。 研究に必要な試薬類は少量でも価格が高く現状でも予算が足りない研究室も多い。 なおかつ、その研究結果は、一番最初に出せなければ無駄になってしまいます。今までの予算を無駄にしないためにも予算の維持及び増額が必要。
1021	会社員	文部科学省	科学研究費補助金	科学研究費は削減すべきではない。	日本には資源がなく、科学技術大国を維持することが経済力を保つためには必要不可欠である。
1022	会社員	文部科学省	戦略的創造研究推進事業	戦略的創造研究推進事業の予算は削減すべきではない。	日本には資源がなく、科学技術大国を維持することが経済力を保つためには必要不可欠である。
1023	会社員	文部科学省	科学技術振興調整費	科学技術振興調整費の予算は削減すべき	日本には資源がなく、科学技術大国を維持することが

		学省	整費	ではない。	経済力を保つためには必要不可欠である。
1024	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	予算倍増を求めます。	資源の乏しい我が国においては、科学技術振興とそれを担う人材の育成は、国の将来を支える大切な事業であります。その成果は短期間の費用対効果で判断すべきものではなく、今まで研究者コミュニティが十分に議論を重ねて実績を積み上げてきており評価できるものと考えております。科学技術に対する低い評価は、日本の科学の発展に大打撃を与えるものと考えます。
1025	研究者	厚生労働省	先端の基盤開発研究事業 創薬基盤推進事業	優先度を上げるべき。	日本は、欧米に比べて創薬の実力が劣っています。 治験も進まないため、国内で治療に使用できる医薬品の品目は、米国に比べて、2／3です。 特に薬は重要な輸出品目にもなるので、医薬品開発の力が低いことは、日本の国際競争力の低下に直結します。
1026	研究者	文部科学省	世界トップレベル研究拠点プログラム	日本が科学技術研究においてフォローアップからフォアランナーへの脱皮を目指す重要な時期に、従来にない新しいコンセプトで設置された「世界トップレベル研究拠点」を一層強化し、予算の増強をすべきである。このような新しい組織でこそ、先端研究、それらの融合研究が真に国際化の環境の下で推進される。	日本における科学技術教育研究における国際化の遅れは、大学における外国人研究者数が3％程度であること、また、大学の事務組織で英語のできる事務員がほとんどいないこと、さらには外国人受け入れの宿舍が乏しいなどさまざまな要因がある。従来のフォローアップからフロントランナーへの脱皮が必要なこの時期に、日本の大学での抜本的な国際化に向けた施策が必要である。しかし長い伝統の中で培われてきた大学制度を一気に変革することは困難である。このため、大学の中に「国際化特区」を設け、国際化のモデル事業を起こし、それを波及させることが重要である。そのため、先端分野での日本国内、海外の著名な研究者を拠点に集め、国際的な環境の中で研究（しかも先端研究の学際融合研究）を進めよう、というのが「世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）」である。全国に5拠点設置され、非常に大きな成果が得られようとしている。先般の仕分け会議では、外国人研究者招聘事業のくくりの中で議論され、予算削減となった。しかし、このWPIプログラムは単に外国人研究者を招へいするプログラムではなく、日本に世界を先導する先端的・学際的研究拠点を構築することであることを忘れないでいただきたい。もちろん、予算の削減には反対であり、むしろさらに多くの拠点を構築されることを望む。
1027	研究者	文部科学省	科学技術振興調整費（女性研究者支援システム改革）	予算縮減に反対	女性研究員として働かせていただいております。若手です。女性の管理職や先輩研究員が少ない中で、どのように今後仕事と子育てを両立させていけば良いのかイメージが湧きにくいのが現場の実情です。「女性研究者支援システム改革」はこれからの女性研究者に対してロールモデルを示せるような女性研究者を育む予算だと感じておりました。 出産・育児は負担が大きく、その負担軽減がないと研究者として確立するのに大事な時期に仕事を進めるのが難しくなります。研究費の援助は研究を効率的に進めるためには絶対必要なものです。 それが縮減されるということは、結局、もうしばらくこれまで通りハンディを負っていなさい、と言われているのと同様であると感じます。 より一層の女性研究者支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。
1028	研究者	文部科学省	元素戦略	元素戦略技術開発、ならびに学問発展に関わる予算を減ずるべきではなく、むしろ経済停滞期の今こそ積極的な技術開発への投資増を行うべき。	資源の大半を海外から輸入依存している我が国において戦略的な資源リサイクル技術の開発は不可欠である。 今後、BRICs 諸国の経済発展を背景に資源争奪は過熱化することは避けられず、将来を見越して現在の技術開発、基礎学問への投資を行うべきである。
1029	研究者	経済産業省	希少金属代替材料開発プロジェクト	希少金属代替材料開発、ならびに学問発展に関わる予算を減ずるべきではなく、むしろ経済停滞期の今こそ積極的な技術開発への投資増を行うべき。	資源の大半を海外から輸入依存している我が国において希少金属代替材料開発の開発は不可欠である。 今後、BRICs 諸国の経済発展を背景に資源争奪は過熱化することは避けられず、将来を見越して現在の技術開発、基礎学問への投資を行うべきである。

1030	研究者	環境省	循環型社会形成推進科学研究補助金	循環型社会形成推進、ならびに学問発展に関わる予算を減ずるべきではなく、これを支える人材育成ならびに技術開発にむけてむしろ投資増が求められる。	循環型社会形成推進、ならびに学問発展に関わる予算を減ずるべきではなく、世界に対して温暖化ガス削減の逡巡リーダシップをとると宣言した我が国において、世界をリードする技術、学問の発展にむけ投資増を行うべき。
1031	研究者	厚生労働省	先端的基盤開発研究事業	教育という分野は、昨日・今日で簡単に結果が見えてくるものではありません。これからの日本を担う21世紀の人材を育むべき、国・政府が、その長期的展望をないがしろにしていることは、非常に遺憾なことであります。 教育という面に関しては、早急に結果や効果が見えてこないものではありませんが、資源を持たない我が国がこれから先、世界で生き残っていくには、技術国としての道を模索していくことが重要だと思われます。 それらの事を考えると、マニファストであげた公約・政策を実地するための財源の確保を目的として、子供達の未来を狭める方針を国で実施することは絶対にあってはならないことだと思われます。政府が掲げる「モノからヒトへ」の信念とは、こういうことなのでしょうか?? それであるならば、民意とは異なる方向へ進んでいるのではないのでしょうか。 政府・党のために子供達の未来があるのではありません。子供達の未来、日本という国の繁栄・発展のために政府・党があるということを忘れないでいただきたい。 念願の政権を手に入れ、それを維持するのに懸命なのは分かりますが、そのことに執着しすぎると日本の未来を誤った方向に進めかねます。 人を育てるということは、国民に向けたパフォーマンスとしての目先のムダの削減とは一線を画すテーマだと思われます。多くの民意がその事に気付きはじめています。 これらのことを踏まえ、政府が判断・決定を行うことを強く願いこのような意見をする所存にあります。	日本という国の今後の在り方についての意見。
1032	会社員	文部科学省	ナノテクノロジーネットワーク	今後日本の産業技術として重要視されているナノテクノロジーの研究開発には多大なコストがかかるため公的な機関で高額な装置を利用させて頂けるこういった施策はとても重要である。	ナノテクノロジーの研究開発を実施するには最先端の装置を用いて研究する必要がある、そうしないと世界各国との競争に勝つことができない。しかしながら最先端の装置は高額なため一企業が導入して実施することは困難であり、その意味で公的な機関でそのような装置を利用させて頂けることはとても有意義であるから。
1033	研究者	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPring-8）の運営体制の構築	先日の行政刷新会議において、SPring-8への予算削減の評価が下りました点につきまして、今回のような1/3～1/2削減という規模の予算削減は受け入れられないと考えます。世界トップレベルの光源を持つSPring-8のポテンシャルとその運営体制が今後も維持されるように望みます。	我々は、SPring-8の粉末X線構造解析ビームライン（BL02B2）を利用した複雑なアルミ系合金の構造解析に成功し、その成果が、熱電材料として環境エネルギー問題の解決に対して大変有望であることの理由を解明するに至り、世界的にも有名でインパクトファクターの高いPhysical Review Letters, Physical Review Bなどの国際誌に掲載されました。これは世界トップレベルの光源であるSPring-8でしか得られない成果です。鳩山政権の掲げる二酸化炭素25%削減に貢献すると期待される材料の、世界最先端の構造解析・測定技術のポテンシャルが今後も維持されるように望みます。

1034	研究者	文部科学省	大型放射光施設 SPring-8	3 分の 1 から 2 分の 1 程度予算要求の縮減に反対します。	自己収入増を求める意見が目立つが、そのためには大幅に「産業利用」を促進する必要があり、その結果として、多くの企業が非公開実験を行うことで具体的な成果が一層隠匿されてしまうととも、基礎科学（すべてが公開研究である）利用の減少を招く。つまりはノーベル賞級の研究は SPring-8 から発信する可能性は大きく減少する。基礎科学の分野では SPring-8 は世界的に評価が高く、欧米の大型施設を凌ぐ研究成果を誇っている。時として基礎科学のジャンルに於いてメリットを求めすぎるとは近視眼的な発想を産み、逆に成果を圧迫する。全ての発展の基礎である基礎科学の分野に金額を投じることは豊かな国の国際的使命でもあるはずである。
1035	研究者	文部科学省	競争的資金（外国人研究者招へい）：世界トップレベル研究拠点プログラム及び学術国際交流事業	世界トップレベル研究拠点（WPI）プログラムは、日本の大学・公的研究機関の真の国際化の在り方とその道筋を模索するうえで不可欠な取り組みである。 一方、学術国際交流事業は約 50 年続いた事業であるが、日本の大学・公的研究機関の国際化への貢献は極めて乏しいことが実証されている。 緊縮財政下においては、WPI プログラムを学術国際交流事業の発展的後継事業と位置付け、その維持発展に努めるべきである。	1)日本の大学・公的研究機関の国際化は、その重要性は久しく指摘されているものの、今日に至るまでほとんど全く果たされていない。 2)学術国際交流事業は昭和 34 年から続いた事業だが、大学の国際化には何ら貢献していないことは実証済みといつてよい。 3)昨今の事業仕分けの指摘にもあるように、「日本の大学・公的研究機関の国際化のためには、招へいしなくても世界トップが来たいと思うような大学づくりや研究を行うことが先決」であり、WPI プログラムはその目的に合致する。 4)同様に、事業仕分けの指摘にあるように「平均 14 億円の根拠はない」。しかしながら同時に、「縮減すべき」との論理的根拠も存在しない。その適正規模は、例えば海外の類似拠点との比較、研究内容を吟味の上決定されるべきである。 5)最先端事業（1000 億円）との類似性が指摘されているが、こちらは未だ始動しておらず、その実効性の確認は少なくとも 3－5 年を要する。WPI プログラムをその先行的取組みとして位置づけるべきである。 6)とはいえ、現在の国状を考えれば、全体予算枠の縮減はやむなしとの意見は理解できなくもない。しかしその場合も、一律の削減ではなく、類似事業の優劣の吟味のうえ、大胆な再配分を検討すべきだ。 7)仮に再配分論でとらえる場合、上記 1)－5)の理由から判断すれば、WPI プログラムを優先、学術国際交流事業を劣後とすることが極めて妥当である。 以上
1036	研究者	文部科学省	ナノテクノロジーネットワーク	日本の科学技術の底辺を発展させるという意味で必要なのだと思います。	現在、科学予算の多くは旧帝国大学を中心とした一部の研究者に非常に偏って配分されています。また科研費等の予算にしても不思議なことに実績が重要とされるので、研究ができない大学はますます研究ができないという悪循環になっていると感じています。 ナノテクノロジーネットワークはそういう組織に所属している研究者に自分の着想を試すための糸口となるものだと考えますのでこの施策は必要だと考えております。
1037	会社員	環境省	循環型社会形成推進科学研究補助金	レアメタルの回収技術は、今後も継続的に予算投入して他国に先駆けて資源回収できる体制を確立すべきである。 レアメタルは日本で採算ベースで採掘可能な天然鉱石がほとんど無い。最近では日本は大量の「都市鉱山」と抱えて	この 1 年、2 年で結果を出るような事業では無いが、今、先行して技術開発をしないと、日本は、「資源無し、技術無し」の国になり、製造業を始めとして全ての産業を後退させる元凶になってしまうリスクがあると考えるため

				いると言われているが、実際に回収が軌道に乗る為にはさらに先行投資する必要があると考える。	
1038	会社員	文部科学省	元素戦略	レアメタルの回収技術は、今後も継続的に予算投入して他国に先駆けて資源回収できる体制を確立すべきである。 レアメタルは日本で採算ベースで採掘可能な天然鉱石がほとんど無い。最近では日本は大量の「都市鉱山」と抱えていると言われているが、実際に回収が軌道に乗る為にはさらに先行投資する必要があると考える。	この1年、2年で結果を出すような事業では無いが、今、先行して技術開発をしないと、日本は、「資源無し、技術無し」の国になり、製造業を始めとして全ての産業を後退させる元凶になってしまうリスクがあるため考えるため
1039	会社員	経済産業省	希少金属代替材料開発プロジェクト	レアメタルを使用しない製品開発は他国に先駆けて技術確立させるべきである。 レアメタルは日本で採算ベースで採掘可能な天然鉱石がほとんど無い。最近では日本は大量の「都市鉱山」と抱えていると言われているが、実際に回収が軌道に乗る為にはさらに先行投資する必要があると考える。	レアメタルを使用せずに製品開発できる事が天然資源の無い日本にとって有力な技術になると考えるため
1040	研究者	総務省	超高速	本研究施策は、光通信分野で日本が有する世界最先端技術を集約して、爆発的に需要が伸びるとされている超高速情報通信ネットワークの構築に必要な基盤技術を研究開発するものです。 従って、本研究施策は、将来の情報通信社会の中核をなす技術の研究開発を推進するものです。我が国の国際競争力を維持発展させるためにも極めて重要な施策と考えられ、実施が望まれます。	本研究施策の成果は、20世紀後半からの集積回路（IC）の発展に引き続き、21世紀の光の時代（フォトリソグラフィ）に向けた技術革新の研究開発の中核となる技術であります。 また、本研究の成果は、超高速、大容量の通信システム構成に深くかかわるもので、その成果により、地域・都市・海外との映像などの広帯域通信のみならず、多くの産業分野や生活の向上と密接に関連しております。 本施策により、重要な基盤技術の研究開発が推進されることを期待しています。
1041	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	科学研究費補助金に関する予算は、今後日本の科学技術の発展を支えていく基礎技術を生み出していく事業であるため、本予算は現在よりも増額すべき予算であると考えます。	・大学における基礎研究は、運営交付金が十分に配分されていないことから科学研究費補助金等の競争的研究資金に依るところが大きく、科学研究費補助金等の競争的研究資金が大幅に削減されると大学での研究推進に大きな打撃を与えます。また、大学での研究教育活動にも支障をきたします。 ・基礎的研究を支える科学研究費補助金が削減されると、研究の質が低下し、国際競争力が無くなります。 ・国民の生活は、科学技術の発展によって支えられている。
1042	研究者	文部科学省	戦略的創造研究推進事業	戦略的創造研究推進事業に関する予算は、世界をリードする日本の先端科学技術の発展を支えていく事業であるため、本予算は減額すべきでない。	・世界をリードする日本の先端科学技術の発展には、トップダウン型の大規模な研究支援が必要不可欠である。 ・日本の先端科学技術の発展を支える戦略的創造研究推進事業が削減されると、研究の質が低下し、国際競争力が無くなり、産業界そして国民の生活にまで甚大な損失が生じる。 ・国民の生活は、科学技術の発展によって支えられている。
1043	会社員	文部科学省	元素戦略	資源に関しては、長期的な戦略を持った研究というのは非常に重要であると考えます。 昨今の経済状況では企業が数十年レベルで	われわれのような企業が、新たな技術を多数生み出し、優れた新製品を市場に出そうとしても必要な資源がなければ、その製品の供給することができない。したがって資源の問題をどうして行くかということは非常

				の長期的展望をもって研究活動を進めていくことは困難であり、そのような活動の推進、援助は、国民の全体の未来のために、公的機関が責任を持って行うべきである。	重要である。
1044	会社員	経済産業省	企業・個人の情報セキュリティ対策事業	我々を取り巻くボーダーレスなインターネット世界から、個人や企業の「情報」を守り、かつ効率的活動を保証するためにも情報セキュリティ対策を促進していくことは経済活動全般を支えるものとして必要不可欠である。	1) ハードウェアの技術革新や個人が扱える情報量の増大により、日々安全性は低下するため、セキュリティの基盤となっている電子署名技術・認証技術等の継続的な調査・研究開発等は必須。 2) 「使いやすいから」「簡単だから」という理由だけで、安易な方法に流れる風潮もあるが、将来国民の生活や経済活動を妨げる懸念がある。よって、既存の基盤をより使いやすいものにするための調査・研究や電子署名・認証基盤を確実簡単に利用できる共通モジュール等の開発提供が必要なため。 3) 利用者が情報セキュリティを正しく理解していないがために発生するであろう事故を未然に防止するための教育・助成が必要不可欠なため。
1045	研究者	文部科学省	戦略的創造研究推進事業	府省としての資源配分方針を踏まえた科学技術開発予算概算要求の基本的な考え方 に全面的に賛同します。その基本理念に従って「戦略的創造研究推進事業」への満額回答を要求します。	これまで当該事業は、研究者が試行錯誤、一進一退しながらも育てた新発見の芽を開花させるために多大な貢献をしてきた。日本国発信の多くの偉大な業績は本事業のサポートによっている。 日本全国、そのような芽を持っている研究者の数は計り知れない。そうであるにもかかわらず、毎年毎年、極めて限られた研究にしか資金援助されていない。結果として、他国に先を越されることになる。 昨年度より1つでも多くの研究をサポートすることが日本の国益ひいては世界的貢献に直結するはずである。 日本人の創造的な頭脳をもっと信じてもらいたい。
1046	会社員	文部科学省	元素戦略	1) 今後、どのような方針で重要視する元素を選択していく予定なのですか？ 2) 元素戦略を考える上で、国民の元素の重要性の認識が必要不可欠だと考えておりますが、資源に対する広報や教育をどのように認識されておりますか？	1) 元素選択の方針について 昨今の技術革新の速さにより、電子機器等に使用される元素が目まぐるしく様変わりしています。その結果、今重要とされる元素が将来的には代替元素が出現し、さほど重要でなくなる可能性があると考えております。そのため、以下の区分を明確にし、国家の備蓄戦略を進めて頂きたいと考えております。 【技術開発と元素の区分】 ・代替材料開発が困難な元素 ・代替材料開発が容易な元素 ・技術革新により、使用量が減少と思われる元素 ・リサイクルが困難な元素 【資源の偏在性と政治・経済的なリスクによる区分】 ・資源ナショナリズムを進めている国に偏在している元素 ・政情不安定化により資源生産量に重大な影響があると考えられる元素 ・取引量・額が少ないため市場をコントロールしやすい元素 【鉱物・地質学的観点(産出の特徴)による元素区分】 ・開発対象のみ回収される元素(例えば、鉄の場合、鉄回収に伴って他の元素はほとんど回収されない。)